

社会貢献シーズ集

SAPPORO GAKUIN UNIVERSITY SEEDS OF SOCIAL CONTRIBUTION
2024



札幌学院大学社会連携センター (新札幌キャンパス)

〒004-8666
札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1
TEL:011-386-8111 (代表)
E-mail: sharen@ims.sgu.ac.jp
ホームページ: https://www.sgu.ac.jp/renkei_c/



札幌学院大学
ホームページ



札幌学院大学
社会貢献シーズ集



札幌学院大学社会貢献シーズ集の公開にあたって

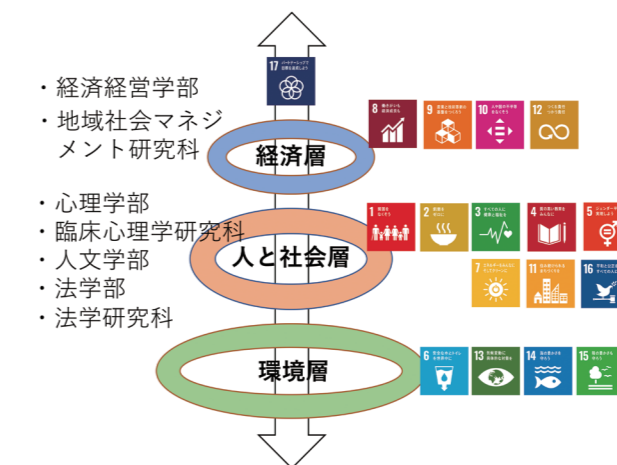


札幌学院大学の前身である札幌文科専門学院は、戦禍が残る1946年、「学の自由」、「独創的研鑽」、「個性の尊重」を建学の精神に掲げ、戦争によって学びを制限された若者たちが自由な知の探究のために開学しました。そして建学精神を支える大学の理念が「自律する力を育てる」、「人権を尊重する大学」、「地域と共生する大学」、「構成員で創りあげる大学」です。札幌学院大学が理念とする人権、共生、協働は、全世界で取り組んでいるSDGs(持続可能な開発目標)に通じるもので、個人を大切にすると共に社会価値を重視して人づくりに取り組んで参りました。その結果、札幌学院大学はSDGsの「環境層」を除き、下図のような4学部7学科3研究科を有する、文系総合大学へ発展しました。

札幌学院大学社会貢献シーズ集

札幌学院大学のシーズ(種:研究、技術、教育、社会活動等)を広く社会に公開することで、大学の教育研究活動の質的向上を期すとともに社会貢献につなげることを目的としています。SDGs(Sustainable Development Goals:「持続可能な開発のための2030アジェンダ」)(2015年9月の国連総会で採択)に記載された、2030年までに達成すべき17の地球規模の持続可能な開発目標から検索できるようにしています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



こうした大学の建学の精神と理念から、持続可能な社会づくりに貢献する、という新たな使命の下「社会貢献シーズ集」を発刊しました。私たち大学の教育者・研究者がそれぞれの専門を活かし、持続可能な、より良い社会と幸福な人生のために何ができるのか、という視点で、教育研究内容と活動実績を示し、「社会貢献シーズ集」にまとめています。

私たちは技術革新等によって大きな恩恵を受ける一方、発展した社会から生じた多様な歪みに直面しています。ロシアのウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとハマスの戦闘など、戦禍による尊い人命の喪失と環境破壊が行なわれています。こうした時代に必要とされるのは社会課題に取り組み、解決していく「志(こころざし)」、「知恵」、「力」です。札幌学院大学が「志」、「知恵」、「力」を社会へ還元し、共有するためにまとめた「社会貢献シーズ集」を、高校等の教育機関、行政、企業、非営利組織の皆様にご活用いただければ幸いです。

2024年3月

札幌学院大学 学長 河西 邦人

CONTENTS

札幌学院大学社会貢献シリーズ集の公開にあたって.....01P

札幌学院大学社会貢献シリーズ集 目次.....02P

1 子どもにやさしい街づくり.....大澤 真平 03P

2 通院困難患者問題.....石田 潔 04P

3 地域食堂かば亭(NPO法人つなぐ).....井上 寿枝 05P

4 学生相談室のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み.....ト部 洋子 06P

5 前頭葉の機能改善から考える人々の健康.....大宮 秀淑 07P

6 心理学的アプローチによるダイバーシティ社会の構築.....斉藤 美香 08P

7 自閉スペクトラム症と地域支援.....山本 彩 09P

8 地域教育の活性化による基礎教育の質的保障の拡充.....井上 大樹 10P

9 当事者が主体となる「学び」の場づくり.....河合 直樹 11P

10 東南アジアの青年における描画表現.....佐野 友泰 12P

11 民族の言語を記録し、次世代に継承する試み.....白石 英才 13P

12 産学官金連携による地域創生の実現.....末富 弘 14P

13 ジェンダーの視点からソーシャルワークの理論と実践を探求する.....横山 登志子 15P

14 地域企業の顧客ロイヤリティ構築及び発展に向けて.....矢川 美恵子 16P

15 金融を知ると世の中がわかってくる.....吉川 哲生 17P

16 公衆無線LANの相互接続基盤Cityroam (OpenRoaming)の展開.....原田 寛之 18P

17 アイヌ語を探究する.....岸本 宜久 19P

18 ダイバーシティ・インクルージョン時代の人材養成と国家再生.....田中 敦士 20P

19 史料から歴史を探る.....山田 伸一 21P

20 地域文化遺産の保存と活用.....臼杵 勲 22P

21 「文化財の保存と経済活動の両立」を軸とした地域社会の活性化.....大塚 宜明 23P

22 地域活性化とアイドルの活用.....神谷 章生 24P

23 ソーシャルビジネスによる地域創生.....河西 邦人 25P

24 現代社会におけるエイジングとケアの可能性.....新田 雅子 26P

25 持続可能な地域創生のための「地域経営学」の学術的理論構築.....藤永 弘 27P

26 ソフトウェア工学と地域づくり.....渡邊 慎哉 28P

27 持続可能な生産と消費.....橋長 真紀子 29P

28 Team Power Based on the Upper Echelons Theory.....黄 昕 30P

札幌学院大学社会貢献シリーズ集 キーワード索引.....31P

札幌学院大学社会貢献シリーズ集 研究者名索引.....33P

子どもにやさしい街づくり

「子どもの権利」を基盤とした社会の持続性の実現へ



准教授
大澤 真平
Ohsawa Shinpei
博士(教育学)
人文学部 人間科学科

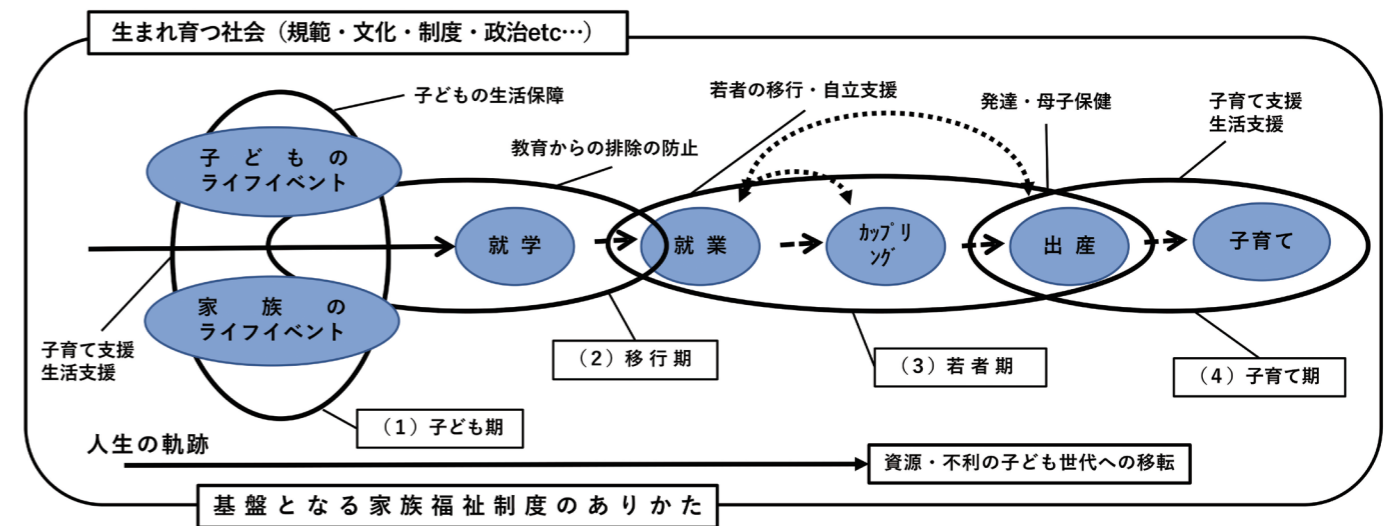
子どもの貧困問題の緩和・解決を研究テーマにしています。子育てや教育現場での子ども調査や自治体の生活実態調査を通して、子どもが安心・安全に育つために必要な仕組みや制度、子育て支援のあり方について提言を行っています。



キーワード

子どもの貧困、児童福祉、子育て支援、子ども虐待、子どもの権利、いじめ

シリーズ(研究)紹介



実績と今後の活動予定

- 2014年～2022年 北海道いじめ調査委員会委員
- 2017年～2018年 札幌市「子どもの貧困対策計画」策定に係わる子ども・子育て会議 実態調査検討ワーキンググループ委員
- 2017年～現在 札幌市児童会館等指定管理者 選定委員会委員
- 2019年～現在 江別市社会福祉審議会委員
- 2020年～現在 北海道大学大学院教育学研究院附属 子ども発達臨床研究センター研究員

地域や産業界、自治体に向けて

子どもの貧困研究を専門にしています。「子どもの貧困対策推進法」が成立したことを受け、これまで北海道、札幌市、旭川市等、道内の自治体のみなさまと協力して子ども・若者の生活実態調査を実施してきました。児童虐待問題とも合わせて、地域の子育て支援や子ども・若者の生活支援について、何をどのように進めていく必要があるのか、地域の実態に合わせた「子どもにやさしい街づくり」を共に考えていきたいと思っています。

通院困難患者問題

ソーシャルワーク実践に基づく地域の課題解決を目指して

私の本業は病院に勤務するソーシャルワーカーです。ソーシャルワーカーとは、簡単にいうと社会のなかで弱い立場にある方々が、自分の望む健康で文化的な生活を送ることができるようにお手伝いをする仕事です。

私はこの仕事を通じて、社会のなかで理不尽にさらされる多くの方々と出会ってきました。病気を理由に会社をクビになった人…病気や怪我が原因で障害を負い、高い能力があるのに不当な賃金で雇用されている人…体中が傷だらけなのに助けを求められない子ども…このような立場にあることは、果たして個人の責任なのでしょうが私はこのような状況を生み出す社会の構造に問題があると考えています。

ソーシャルワーカーはその職業が有する専門的な知識と技術で、社会のなかで様々な問題を抱えて悩み苦しんでいる方々の問題解決のお手伝いをするのと同時に、その価値をまちづくりに役立て、誰もが安心して暮らし続けることのできるまちを形作っていく必要があると考えています。

そのための実践に、医療・介護・福祉に関連する多職種や地域住民とともに取り組んでいます。



医療ソーシャルワーカー
石田 潔
ISHIDA Kiyoshi
修士(地域社会マネジメント学、社会福祉学) 博士(政治学)
地域社会マネジメント研究科
修士生
社会連携センター協力員

キーワード

ソーシャルワーク、通院困難患者、多職種連携、医療・介護連携、地域包括ケア、北海道小樽市



シーズ(研究)紹介

高齢社会の進展により、高齢者の買い物や通院といった移動手段の不足や確保が社会問題となっています。

国民生活基礎調査によると、65歳以上の高齢者の7割が何らかの疾患に罹患しています。高齢期に多い傷病の特徴としては、高血圧症や脳血管疾患、心疾患といった血管病変にともなう疾患、あるいは腰痛や関節痛をともなう整形疾患などが多く挙げられ、いずれの疾患も定期的・継続的な治療・経過観察が不可欠であり、高齢期における定期的な通院は、疾患の早期発見や増悪の予防、高齢期の健康を維持しながら要介護者の増加を予防するうえで極めて重要な課題であるといえます。また、通院困難の要因は、単に身体

的機能や認知的機能の低下による個人要因によるものだけでなく、福祉関係制度等の不備や不足、交通交通の状況や地理的特性等、社会的な要因によっても顕在化することが想定されます。

以上のような問題について、私は北海道小樽市をフィールドとして、課題の実態を明らかにするべく調査・研究に取り組み、問題解決に向けた様々な方策について医療・介護・福祉関係多職種や地域住民、行政と協働して検討し、地域福祉計画や在宅医療・介護連携推進事業といった行政計画に反映させるなど、課題解決に向けて取り組んでいます。

実績と今後の活動予定

小樽市においては、2014年より国の示す「在宅医療・介護連携推進事業」の実施を目的に、「おたる地域包括ビジョン協議会」が設立されました。この協議会では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するため、医療機関と介護事業所などの関係者の連携を推進することを目的に活動しています。その活動のひとつとして、通院困難患者問題に対する支援方策の検討を進めており、2023年9月に小樽市における通院困難患者問題の実態と課題を明らかにするために、小樽市内の居宅介護支援事業所等58か所を対象に「小樽市における通院困難事例実態調査」を実施し、市内僻地における通院困難実態の深刻さを明らかにし、課題解決に向けた方策について検討しました。

- 【公職】 ・一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 業務執行理事(2021年～)
- ・小樽地域包括ビジョン協議会 委員(2016年～)
- ・小樽市地域福祉計画策定委員会 委員(2019年～)

地域や産業界、自治体に向けて

通院困難患者問題は、制度の整備や介護サービスの質・量の確保といったフォーマルサービスのみならず、地域の互助的な助け合いや医療機関・介護事業者等の独自のサービスの実施など、多様なステークホルダーが協働することによる多角的な支援策を検討する必要があります。このような地域の福祉的課題に多くの方々に関心を寄せていただき、取り組みに参画していただけますと幸いに存じます。

地域食堂かば亭(NPO法人つなぐ)

総務課職員として福利厚生等の業務を担当していますが、居住地域(札幌市豊平区東月寒)で仲間とともにNPO法人(名称:NPO法人つなぐ)を設立し、障がい者福祉や地域交流事業等を行っています。2017年から新たな事業として子どもたちのための地域食堂(名称:地域食堂かば亭)を開始しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い食堂の開催ができなくなった時は、弁当や食材の無料配布を行い、かわら版を発行してつながりを持ち続けられるように工夫しました。感染が落ち着いている時は参加人数や時間を縮小して開催していましたが、今は少しずつ以前のかたちに戻りつつあるところです。

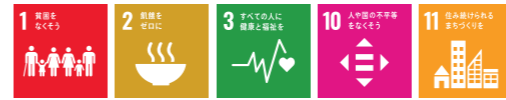
特別有給休暇(ボランティア活動)により毎月1回の活動を継続しています。社会福祉士です(通信教育で資格取得)



職員
井上 寿枝
INOUE Toshie
学士(文学)

キーワード

地域食堂、子ども食堂、こども、居場所、地域づくり



シーズ(研究)紹介

核家族化や地域のつながりの希薄化なかで、困難を抱える親子を支援するために、子どもがひとりで来てもよく、そして誰が来てもよいところとして地域食堂を開催しています。安価で栄養のあるおいしい食事と団らんの場や遊びの場を提供しながら、経済的困難を抱える家庭だけではなく、共働きなどで孤食になりがち子ども、学校や家庭に居づらさを感じる子どもとその親たちへのサポートにつなげます。地域にボランティア協力を呼びかけ、子どもたちを支え、親たちの子育てを支える地域づくりをするなかで、大人たちもつながり、すべての人々が自然とくっ合って豊かに生活できる地域になること目指しています。



実績と今後の活動予定

毎回子どもや保護者を中心に80名程度の参加者があり、一緒にご飯を食べたり、遊んだりして楽しく過ごしていただいています。子どもからは「やすくておいしい」「あんしんする」、また保護者からは「子どもだけで来ても気軽に食べられる。家で1人で食べるよりも、子どもも大人もいてくれてよい」などの声をいただいております。今後も継続して開催します。よりよい活動を行うため、「こども食堂北海道ネットワーク」「つきさつプロジェクト」等のネットワークや関連のシンポジウム等に参加し、情報交換や学習・交流を行っています。



地域や産業界、自治体に向けて

学校を始めとする多くの関係機関・団体や住民、東月寒地区町内会連合会、企業、農協、商店街やスーパー、飲食店等からも様々なご寄付やご支援・ご協力をいただき感謝しています。今後もつながりを広げ、深めたいと考えます。企業のCSR活動や助成事業により、参加者の負担を軽減した食堂運営が可能となっています。札幌市の後援を受け、「さぼーとほっと基金」による助成を受けていますが、2020年度から市の予算による補助制度が開始されるなど、子ども食堂への支援が行われるようになっており、今後も連携を固りつつ協力しながら取り組みたいと考えています。

学生相談室のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み

セラピードッグとふれ合い、心と心をつなぐ

本学の学生相談室のユニークな活動のひとつとして、多くの学生が学生相談室を利用するきっかけづくりを目的として、2017年から月に1回、昼休みに「セラピードッグのふれ合い」を開催しています。毎回、沢山の学生がセラピードッグの「エース」とふれ合い、温かさや癒しを感じながら語り、コミュニケーションの場にもなっています。コロナ禍の影響で、開催できない時期はありましたが、「視て癒される」動画のセラピードッグを本学のHPでアップすることになり、多くの学生、教職員、地域の方々から心温まる言葉を頂いております。



専門職員
卜部 洋子
URABE Yoko
修士(臨床心理)

キーワード

セラピードッグ、学生相談室、カウンセラ



シーズ(研究)紹介

～セラピードッグ導入について～

学生相談室の利用について、増えてきているものの、学業や対人関係で悩み、誰にも相談できずに、長期欠席している学生が少なくないです。そこで、学生相談室を気軽に利用しやすいように、セラピードッグとふれ合う機会を考えました。

セラピードッグについて、海外ではアメリカの大学のキャンパスでセラピードッグのふれ合いが紹介されるようになりました。本学の学生相談室で「セラピードッグ」の導入は国内では初めての試みです。毎回、100人以上の学生がセラピードッグにふれ合いに来ています。学生の呼びかけにエースは学生を見て、大きく尻尾を振って大喜びです。エースと触れ合いながら「温かい」「ぬくもりを感じる」「可愛い」「癒される」等、セラピードッグから伝わってくる体温や感触を感じているようです。また、1人暮らしの学生は実家を思い出し、その際、飼っていた犬のこと、大切なペットが他界し悲しさや懐かしさを伝えたこと、友人やバイト先の人間関係で悩んでいること、就活のことで将来、心配なこと等、自然に語りあうなか、学生相談室につながることもありました。さらに留学生や教職員にとっても触れ合う機会になりました。コロナ禍でセラピードッグの動画を配信することになり、多くの方々に反響がありました。2022年度から、セラピードッグのふれ合いを再開しました。その中、コラボレーションのピアサポーター(学生)が、セラピードッグのふれ合いスタッフとして、積極的に手伝っていただいています。また、セラピードッグの動画もサポートデスクのピアサポーター(学生)が素敵な動画を制作してくれました。このように、学生が前向きに活動の幅を広げて活躍することが増えてきました。

コロナ禍の影響で、開催できない時期が続いておりましたが、2022年度から、事前予約制で1人から2人のふれ合いを再開しています。予約は直ぐにいっぱいになりますが、エースと久しぶりに会う学生、初めて会う学生、教職員も癒されたようです。また、皆さんの応援や希望もあり、新札幌キャンパスでも活動する予定です。今回はセラピードッグの動画、第5弾を制作致しました。北海道の夏から秋の自然の中で過ごすエースの元気な姿をご覧ください。

今回は本学で活躍しているコラボレーションセンターとサポートデスクのピアサポーター(学生スタッフ)が、エースの動画を撮影、編集し「セラピードッグのYouTube動画 第6弾」が完成しました。今回の動画は、エースと一緒に学内を案内しながら、職員と触れ合う様子が観れます。また、学生相談室も紹介しております。撮影中のエースは尻尾を振りながら大喜びで、ピアサポーターに懐いて楽しい時間を過ごしました。コラボレーションセンターとサポートデスクのピアサポーターが制作した「観て癒される」素敵な動画を、是非、ご視聴ください。



札幌学院大学 学生相談室 セラピードッグ エース Vol.5 2022年11月20日公開
札幌学院大学 学生相談室 セラピードッグ エース Vol.6 2024年1月23日公開

札幌学院大学学生相談室 セラピードッグ「エース」の動画	札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エースVol.1	https://www.youtube.com/watch?v=QjrYvPHs0c&t=4s
	札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エースVol.2	https://www.youtube.com/watch?v=kR3xTWpQE_c
	札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エースVol.3	https://www.youtube.com/watch?v=T_tjwnFK_QY
	札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エースVol.4	https://www.youtube.com/watch?v=_nvS5sRkryI
	札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エースVol.5	https://www.youtube.com/watch?v=29IIsMYq5OE
	札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エースVol.6	https://www.youtube.com/watch?v=fSjozVBV08

実績と今後の活動予定

今後も「セラピードッグ」のふれ合いは開催し、動画も制作する予定です。昨今、コミュニケーションの苦手な学生が多く、集団生活に馴染めず、長期欠席から休退学する学生も少なくありません。また、多くの留学生も母国に自由に帰国できず、寂しい思いをされている学生も少なくありません。今後もセラピードッグを通して、温かさや温もりを感じ、学生相談室の利用にお役立ちできればと思います。更に、セラピードッグのふれ合いを通して、ピアサポーター(学生)の活動、場、仲間同士の輪が広がっていくことを期待します。

地域や産業界、自治体に向けて

本学の大学祭に北海道ボランティアドッグの会の多くのセラピードッグとボランティアに協力していただいています。その際、本学の学生ボランティアも参加し「セラピードッグ」のふれ合いを紹介し、地域と交流しながら社会貢献の場にもなっています。世の中が複雑になり、老若男女の多くが悩みを抱えています。中には自分では対処しきれないほどのストレスを抱えている人もいます。そんな時、セラピードッグとふれ合い、伝わってくる温かさや癒しを感じていただければと思います。

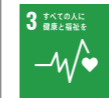
前頭葉の機能改善から考える人々の健康

-臨床×研究=∞の未来-



教授
大宮 秀淑
Omiya Hidetoshi
博士(保健科学)
心理学部 臨床心理学科

効果的な脳トレとはどのようなものなのかについて研究し、前頭葉に機能不全が認められる方の注意力や記憶力の改善を通して、多くの人々の健康に寄与することを目指しています。臨床現場と研究活動が協働することで社会の未来がより一層開かれていくことを目的としています。



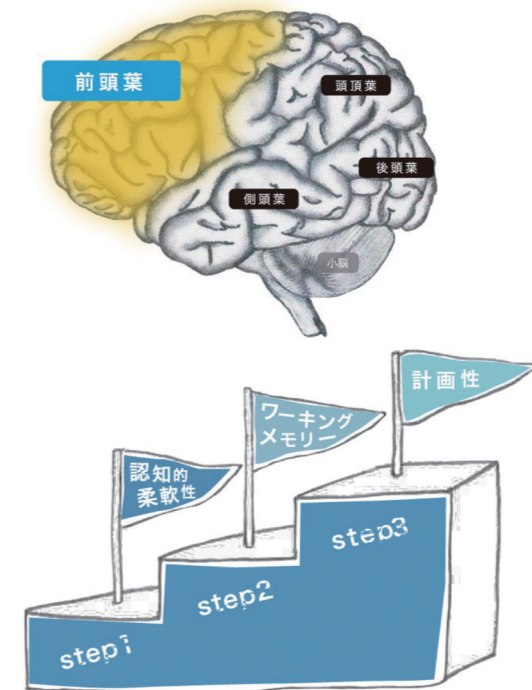
キーワード

認知機能、記憶力、前頭葉、精神疾患、実行機能、脳トレ

シーズ(研究)紹介

前頭葉の機能不全がある方の認知機能(注意力・記憶力)と生活の質の改善を目指しています。

見ている = 見えている？



実績と今後の活動予定

- 2011年～現在 福島大学大学院臨床心理同門会会長
- 2014年～現在 北海道児童青年精神保健学会理事
- 2016年～現在 北海道大学大学院保健科学研究院客員研究員
- 2019年～現在 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会協力委員 (北海道・東北地区)
- 2020年～現在 江別市いじめ防止対策審議会委員
- 2024年～現在 日本精神衛生学会理事

地域や産業界、自治体に向けて

注意力や記憶力、計画性に代表される人間の認知機能は主に脳の司令塔である前頭葉が司っている。前頭葉はストレスや加齢など様々な要因によって低下することが指摘されており、前頭葉が機能を改善することは人々の生活の質を向上させるために重要なことである。今後さらに研究を進展させ、医療機関のみならず、教育機関においても効果が実証されている脳トレを普及していくことを検討している。

心理学的アプローチによる ダイバーシティ社会の構築

心理的バリアをなくし、支え合う社会づくりに向けて



教授
斉藤 美香
Saito Mika
修士(文学)
心理学部 臨床心理学科

病院臨床の場で乳幼児から高齢者までの心理支援に携わり、大学の学生相談室で大学生・保護者・教職員のカウンセリングやメンタルヘルス啓発、居場所支援などコミュニティを活用した心理支援や障害学生支援の実践研究を行っています。



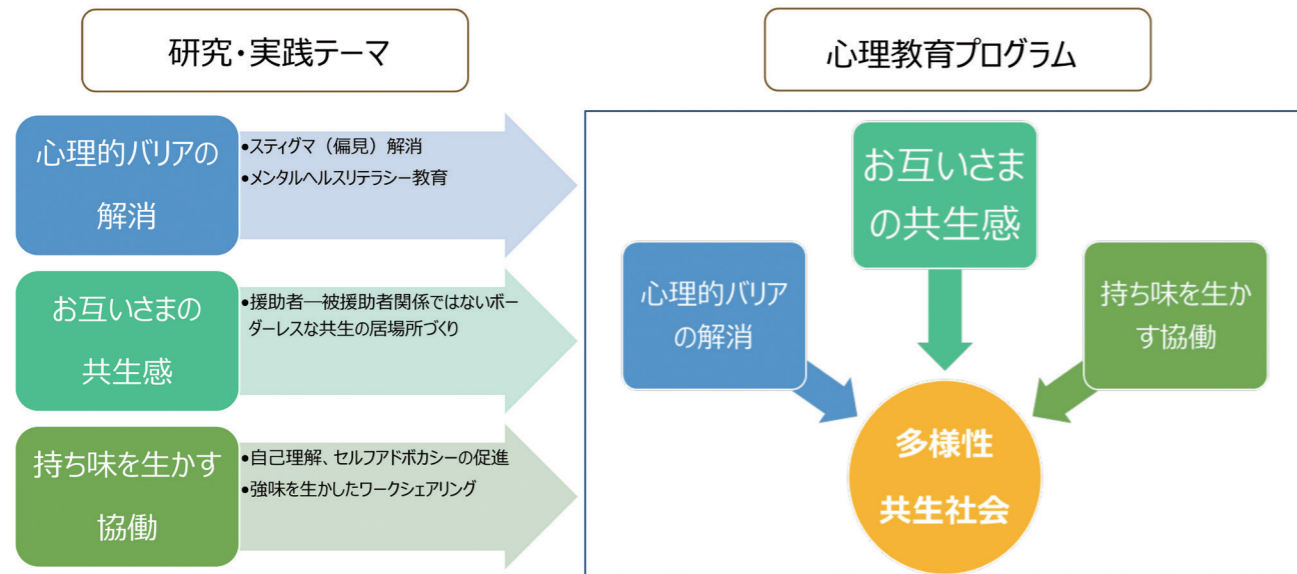
キーワード
心理的バリア、ダイバーシティ、共生、
心理教育、ボーダーレス、障害

シーズ(研究)紹介

私はこれまで精神的な悩みを抱えている方、障害をもつ方からの相談に携わってきました。支援が必要なのに、援助要請行動に踏み切れない方は多く、その要因と対策の研究をしてきました。個人の中にある精神疾患や障害に対しての「心理的バリア」や社会のバリアがその要因に根深く関与していることがわかりました。日本もダイバーシティ社会(多様性共生社会)に転換されつつありますが、人の

心に潜む心理的バリアを解消する手立てがないと、真の共生社会として成熟していかないと考えます。

最近には特に中高生、大学生における、精神疾患や障害に対する心理的バリアを解消するための心理教育プログラムについて研究と実践を行っています。



実績と今後の活動予定

国公立・私立大学において、メンタルヘルスや障害学生支援に関する研修会講師の経験を重ねています。2017-2019年 日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)「援助要請行動回避型学生へのメンタルヘルス教育プログラムの開発」研究代表者として、大学生向けの援助要請行動促進プログラムを作成しました。大学生だけでなく、小・中学校、高校などの学生や一般市民に対して、心理的バリアを緩和するためのメンタルヘルスに関する心理教育プログラムを提供します。

地域や産業界、自治体に向けて

メンタルヘルスへの心理的バリアを減らすことは企業や一般市民にとって喫緊の課題です。今後は、地域・企業・自治体でのメンタルヘルス啓発活動も進めていきます。

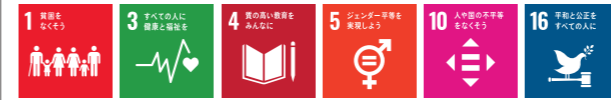
自閉スペクトラム症と地域支援

～二次的な問題への予防と介入、家族支援、多職種連携～



教授
山本 彩
YAMAMOTO Aya
博士(教育学)
心理学部 臨床心理学科

「世界はあらゆる頭脳を必要としている」は、自身も自閉症(現在の自閉スペクトラム症)の診断を受けた動物学者テンブル・グランディンさんの言葉です。多様な頭脳を持つ多様な人々が、地域で互いに助け合い支え合う地域づくりを目指して心理的・福祉的実践と研究を重ねてきました。そのためには保健、医療、福祉、教育、司法、労働などの垣根を超えた連携が必要不可欠です。そうした方法論についても実践と研究を重ねています。



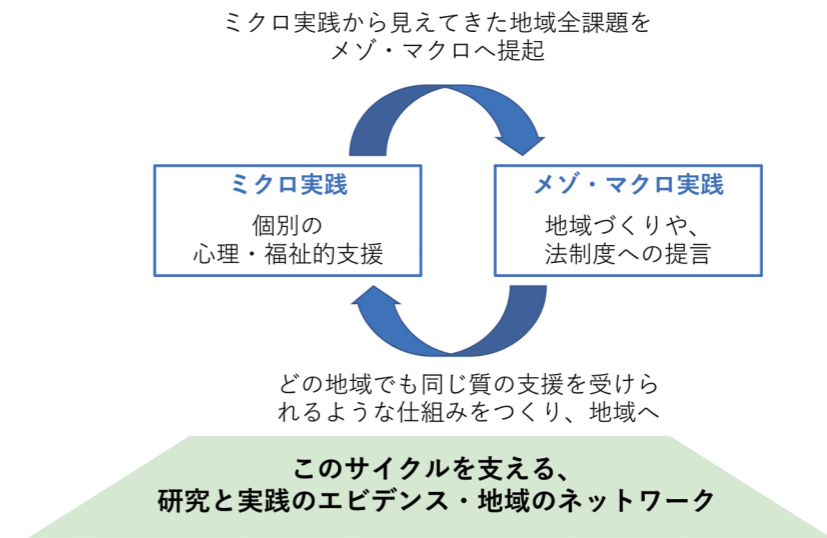
キーワード
自閉スペクトラム症、家族支援、社会的ひきこもり、
発達支援、地域支援、司法福祉連携

シーズ(研究)紹介

自閉スペクトラム症がある子どもを持つ親は、どのように我が子を育てたらよいか悩むことが多いと言われています。乳幼児期の地域支援ではそうした家族への支援と特性をもつ子どもへの発達支援を並行して行うことが大切です。学齢期になると教育のための支援が必要です。思春期・青年期以降は地域生活を親から自立して行うための支援とそれらがうまくいかなかったときの回復を手伝う支援が必要となります。

以上のような個別具体の支援を行いながら、並行して地域全体が多様性を認めるよう啓発活動を行うことや、支援方法に悩む機関を側面的に支援することも大切です。これら全体の活動を支え継続性や公平性を担保するのが法律です。

個別具体の支援(マイクロ)・地域づくり(メゾ)・法律などの国全体の制度(マクロ)を循環させるとともに、研究と実践のエビデンスとネットワークでこれらの活動を支えます。



実績と今後の活動予定

- 2015～2019年 厚生労働省思春期精神保健研修「ひきこもり対策研修」講師
- 2018～2019年 厚生労働省「発達障害者地域支援推進事業実地研修家族介入バージョン」講師
- 2016～2019年 札幌市自立支援協議会委員
- 2017～2019年 北海道自立支援協議会人材育成部会委員等
- 2018年から A/CRA/FT ASIA事務局
- 2021年から 北海道臨床心理士会理事

- 2022年から 札幌市幼児アセスメント委員
- 2022年から 北海道発達支援推進協議会構成員

地域や産業界、自治体に向けて

タフな地域、タフな企業は、多様性を認めていることに特徴があります。また組織の中の一員が何らかの理由により一度退いたり失敗したりしても、回復を見守り支援する地域や企業は、地域や企業自体も一緒に成長します。そのような方法を一緒にまずはのぞいてみませんか？

地域教育の活性化による 基礎教育の質的保障の拡充

住民参画でつくる子どもにやさしい地域づくり

もともとは若者の自立(広い意味で)と教育実践(高校、大学・専門学校、社会教育)の研究をしていました。実は、若者の現状は小学校あるいはそれ以前の教育の結果ともいえるのです。現在は、子どもの成長を長期で見通せる小学校教員・保育士の養成、地方創生で効果的な子ども・子育て支援について、それぞれの取り組みを「市民(主権者)の学び」の視点で分析する研究を主としています。

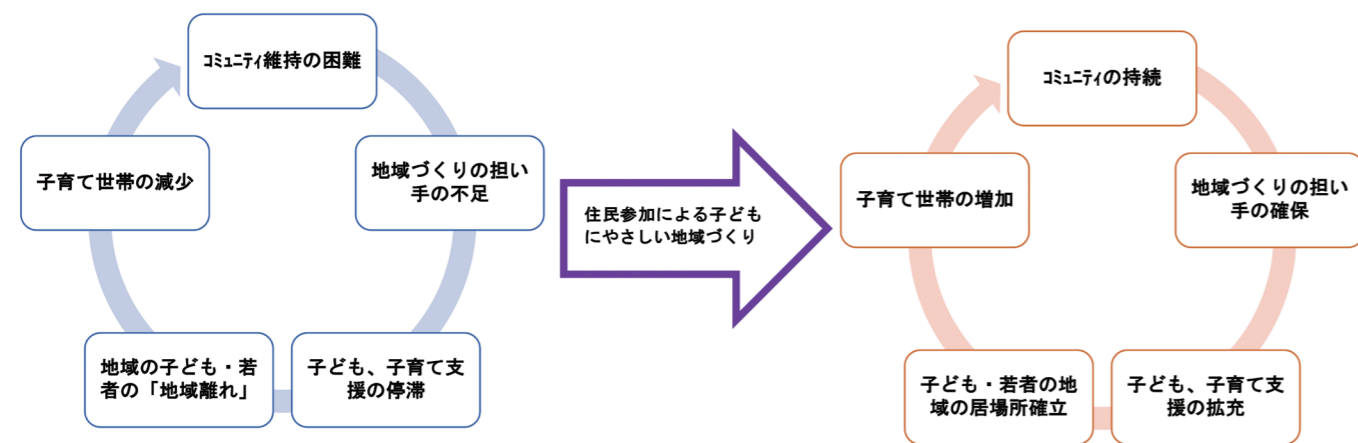


准教授
井上 大樹
INOUE Hiroki
修士(教育学)
人文学部 子ども発達学科

キーワード
地方創生、社会教育、子どもの権利、
子どもの貧困、青少年育成、子ども・若者支援



シーズ(研究)紹介



実績と今後の活動予定

- 2014年12月 - 2015年10月 恵庭市 総合計画審議会教育福祉専門部会 部会長
- 2015年6月 - 2015年9月 恵庭市 地方創生懇話会委員
- 2015年5月 - 現在 北海道私立専修学校各種学校連合会 教員能力認定委員
- 2016年5月 - 現在 札幌市生涯学習財団 さっぽろ市民カレッジ講座企画委員
- 2017年1月 - 現在 社会福祉法人未来の会 理事
- 2016年5月 - 現在 恵庭市教育委員会 社会教育委員
- 2016年7月 - 現在 江別市教育委員会 社会教育委員

主な著書(いずれも共著)

『格差社会における家族の生活・子育て・教育と新たな困難』、旬報社、2014年 (ISBN: 9784845113460)
 『教職概論:「包摂的で質の高い教育」のために: SDGsと学校教育』、学文社、2019年9月 (ISBN: 9784762029158)

今後の主な活動予定

科学研究費助成事業(基盤研究(B))「子ども・若者支援における専門性の構築—「社会教育的支援」の比較研究を踏まえて—(2018~2021年度)の共同研究者として、子ども・若者支援の専門資格化の研究を継続

地域や産業界、自治体に向けて

地方創生総合戦略で人口減少を食い止めるための効果的な施策が地方自治体に求められるようになりました。このことで様々な子ども若者、子育て家庭への支援策の拡充が展開されています。さらに効果的なものにするには地域住民の協力による子ども・若者への居場所・出番づくりが不可欠です。地域の創意工夫による次世代育成が地域づくりの担い手確保という循環につながるよう、微力ながら伴走させていただければ幸いです。

当事者が主体となる「学び」の場づくり

教育・支援における「書道」の可能性



講師
河合 直樹
Kawai Naoki
博士(人間・環境学)
人文学部 人間科学科

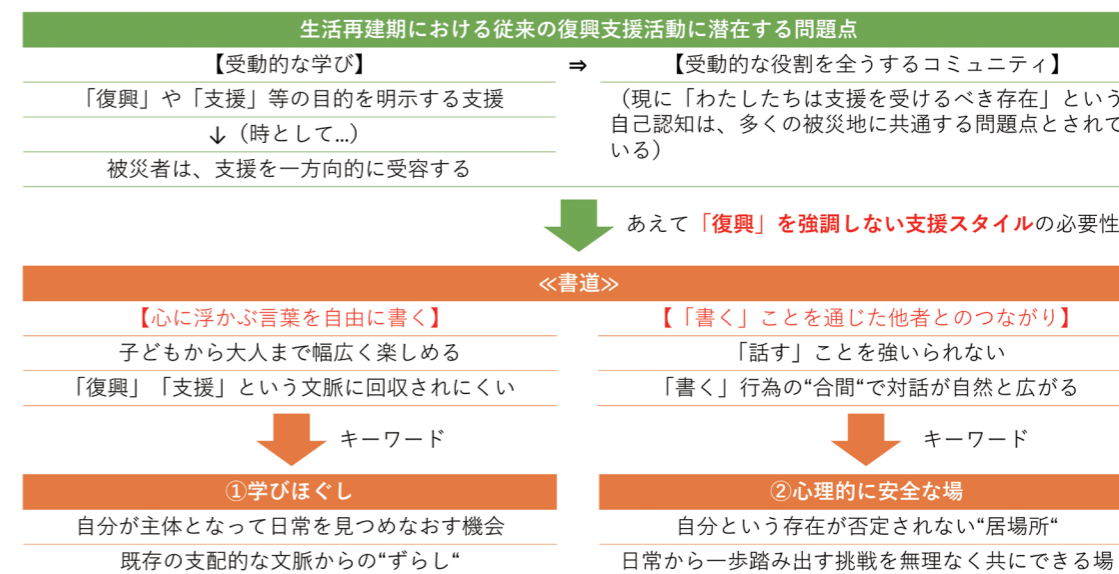
よく「人生は日々勉強」といいます。私たちは、絶えず「学び」の文脈のなかにいるのです。とはいえ、すべての「学び」が望ましいものとは限りません。特に、学校教育や社会的支援のような制度化された環境では、与え手の想定していなかったネガティブな「学び」が、皮肉にも受け手に学習されてしまう場合があります。制度化された「学び」に内在する問題点とその対応策を、現場との協働(当事者とのコラボレーション)をとおして心理学的に研究しています。



キーワード
心理学、主体性、書道、震災復興支援、
数学教育、組織開発

シーズ(研究)紹介

当事者の主体性を重視した社会的支援(例:震災被災者を対象とした書道教室)



<<当事者(被災者)の主体性が発揮されるコミュニティの形成へ>>

実績と今後の活動予定

【実績1】学校教育における「学び」の研究

高校数学の教科書をテーマに、関係者へのインタビューによって現行教科書の使用の現状を明らかにしたうえで教科書を分析し、生徒が「学び」の主体となる新しい数学教科書構想を提案しました。

【実績2】社会的支援における「学び」の研究

東日本大震災被災地において「講師として書道教室を開く」というボランティア活動を継続し、被災者が主体となる場づくりの意義を研究しました。

【現在】教育と支援の混在する「学び」の研究

札幌市内の障がい者自立支援施設において書道教室を毎月開催し、障がいとともに生きる若者の「学び」に書道がどのように貢献するかを研究しています。

地域や産業界、自治体に向けて

「受け身の姿勢」を当事者にもたらす強大な文脈と対峙すると、思わず正面から反発したくなるかもしれません。しかし、当事者の視点に立つならば、当事者をその単一の文脈のみに回収するのではなく、当事者の生きうる多様な可能性を確保することが重要です。書道は、当事者の主体性を回復するコミュニティを生み出す格好の媒体となりえます。近年は、非日本語話者への書道ワークショップを開催するほか、組織開発(組織の活性化)としての書道の意義を探索するなど、多角的なアプローチを行っています。現場とのコラボレーションを何より大切にすることが私の研究スタンスです。どうぞお気軽にお問い合わせください。

東南アジアの青年における描画表現



教授
佐野 友泰
SANO Tomoyasu
博士(心理学)
心理学部 臨床心理学科

地域・文化・気候の相違における若者の描画表現の相違を研究しています。主として東南アジアの大学、児童施設、貧困地域などに赴きデータを収集しています。



キーワード 東南アジア、描画、アートセラピー

シーズ(研究)紹介

地域・文化・気候による描画表現の相違把握 / 国ごとの表現の相違理解

日本の外国人留学生の内面を
非言語的表現により理解

実績と今後の活動予定

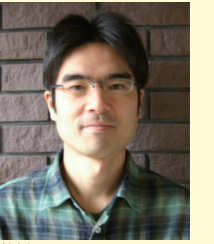
東南アジアの子どもたちにどのように役に立てるか、現場に赴きつつ、心理学の立場から追究していきたいと考えています。

地域や産業界、自治体に向けて

東南アジアのことばかり書きましたが、「ストレス対処」「人間関係の心理」「恋愛の心理」「コミュニケーション力」などを講演では扱うことが多いです。

民族の言語を記録し、次世代に継承する試み

ニヴフ語の記録と保存活動



教授
白石 英才
SHIRAISHI Hidetoshi
博士(Ph.D. University of Groningen, 2006)
(Linguistics, 言語学)
経済経営学部 経済学科

北東アジアの先住民族ニヴフ人の言語であるニヴフ語の調査・研究をしています。ニヴフ人はサハリン島においてアイヌ人の北の隣人です。20年以上にわたり現地で話者から聞き取り調査をし、ニヴフ語の記録に努めてきました。



キーワード

先住民族、言語保持、ニヴフ語、Indigenous people, Language maintenance, Nivkh

シーズ(研究)紹介

ニヴフ語は話者数が極めて少なく、世界的に見ても記録・記述の緊急性が高い言語です。現在、ニヴフ人が日常的に使用する言語はロシア語ですが、ニヴフ語の使用を普及させるための言語保持活動も熱心に取り組まれています。



図1:ニヴフ人の居住域



写真:ニヴフ人の伝統的居住地の一つ、サハリン島西海岸アレクサンドロフスク・サハリンスキー(亜港)

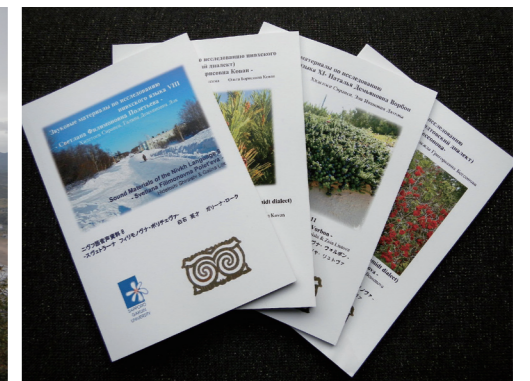


図2.ニヴフ語現地調査の成果を公刊した『ニヴフ語音声資料』にはニヴフ語の会話や民話、歌謡が収録されている。(ロシア語訳、英訳、和訳付き)

実績と今後の活動予定

- 1998年 サハリンにてニヴフ語の現地調査に着手
- 1999年～2000年 サハリン州郷土博物館客員研究員として現地に居住、調査
- 2001年～2005年 University of Groningen(オランダ)研究助手
- 2005年以降 札幌学院大学を拠点に科研費等の研究助成を得ながら現地調査を継続し、記録した言語データを『ニヴフ語音声資料』として公刊(2016年までに計13号)。

ロシア国内での調査の再開を模索しつつ、手元の資料を整理することにより研究を継続した。また、海外を含む複数の研究者との共同プロジェクトを立ち上げ、北東アジアの諸言語を研究する国際的ネットワークの中に位置付けたい。

地域や産業界、自治体に向けて

世界に6,000以上あるとされる言語の9割は今世紀中に消滅するとの予測があります。言語は個人および共同体のアイデンティティの拠りどころであることが多く、それが失われることは個人のみならずその個人が帰属意識を持つ集団にも大きな社会的影響を与えます。少数言語は、手をこまねいてはたやすく大言語に取って替わられてしまいます。話者数の大小にかかわらず、言語を保持・保護することは地域に活力をもたらします。言語学者はそのための支援ができる存在です。

産学官金連携による地域創生の実現

地域課題解決型人材育成と新事業創出の推進



教授
末富 弘
Suetomi Hiroshi
学士(法学)
経済経営学部 経営学科

金融機関、地方自治体、ベンチャー企業、大学産学連携本部での実務経験を活かし、MOT(技術経営)教育、大学研究成果の技術移転による新事業創出、大学発ベンチャーの設立支援及び地域創成人材育成に取り組んできました。地域企業、金融機関、行政機関、大学等と幅広いネットワークがあり、産・学・官・金が連携した多面的な地域課題解決活動を展開しています。



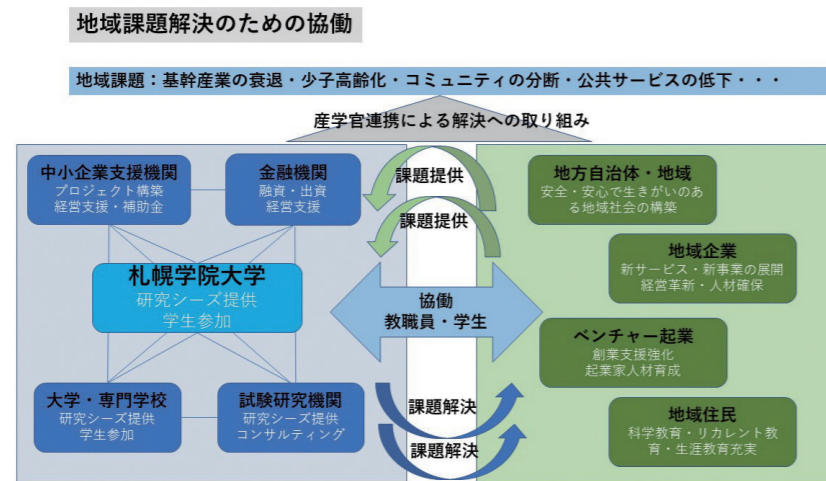
キーワード

MOT(技術経営)、産学官金連携、技術移転、大学発ベンチャー

シーズ(研究)紹介

北海道は全国を上回るスピードで人口減少、高齢化が進んでおり、医療・福祉・商業などの生活に欠かせないサービスの低下やコミュニティの分断と機能低下、災害対応力の低下等、地域住民にとって深刻な課題が顕在化しています。今まで経験したことがない状況下での地域創生が求められています。新たな取り組みには大学の研究成果や教職員、学生等の資源を活用して協働することが効果的な場合があり、これらについて取り組むとともに結果について考察しています。例えば、地域課題発掘人材の育成と、その人材が実際に地域に入って調査を実施して当該地方自治体に提言を行う

プログラムを行いました。成果については今後の検証が必要ですが、提言策定の過程では受講生と当該地方自治体職員、住民等との活発な意見交換があり、今後の展開が期待されます。また、大学の研究成果の活用(技術移転)の責任者として技術移転に取り組み、効果的な技術移転について考察しています。また技術移転の受け皿としての大学発ベンチャーの設立及び起業家人材の育成について、地域金融機関や中小企業支援機関との連携を絡めた取り組みを行っています。住民の皆様には、博物館を活用した科学教育や生涯教育について、研究しています。



実績と今後の活動予定

20年間にわたり産学官連携の推進による地域企業の新事業進出や大学発ベンチャー設立、起業家人材育成、地域活性化人材育成等に取り組んできました。(北海道TLO、北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学、北洋銀行)また当該分野において、国、北海道、札幌市、経済団体等の委員等を歴任しました。今後は、地域の中小企業支援機関、企業、大学等と連携した創業支援や地域企業支援、子供たちの科学教育、リカレント教育等による地域活性化に貢献したいと思っております。

地域や産業界、自治体に向けて

基幹産業の衰退による少子高齢化や東京一極集中が進み、地域社会を取り巻く環境は激変しています。また、経済のグローバル化・情報化の進展、AI・IoTの実用化は地域企業の在り方に大きな影響を与えています。これからの地域づくりや事業拡大・新事業創出には従来にはない俯瞰的・多面的な発想と果敢な行動力が必要であり、大学や研究機関の研究成果の活用や教職員、学生等との協働が効果的な場合があります。地域の課題解決のために、大学と一緒に取り組んでまいりませんか。

ジェンダーの視点からソーシャルワークの理論と実践を探求する

「家族支援」「母子支援」「トラウマを抱えた人の支援」から



教授
横山 登志子
Yokoyama Toshiko
博士(社会福祉学)
人文学部 人間科学科

わたしたちの社会をかたちづけている制度や関係性には、例外なくジェンダーによる分類と規範が根付いており、時として不平等が生み出されています。ジェンダー・センシティビティの視点から、あらゆる人の幸せや豊かさにつながるソーシャルワークの理論や実践とはどうあるべきかを探求しています。



キーワード

ソーシャルワーク、ジェンダー、家族、母子、メンタルヘルス、実践と理論

シーズ(研究)紹介

誌上模擬授業



教授
横山 登志子 先生

〈専門ゼミナールのテーマ例〉
ジェンダー・センシティブな支援の必要性とその方法
日本におけるジェンダーの社会構造は？

労働慣行や法制度の前提は…
「男は仕事、女は家事育児」
「男は男らしく、女は女らしく」
ジェンダーバイアス(男女の役割に対する固定的な観念)の
高い社会構造
→さらに、社会的な不利は個人の責任と見なされがち。

社会的な不利を抱える人々の「不利」は見えにくい
たとえば
女性、子ども、セクシュアルマイノリティーなど
ソーシャルワークや他の支援職の立場にある人が、ジェンダー・センシティブの視点を欠くと、不利を抱える人々をさらに追い込んでしまう。

「家事育児はお母さんが中心的に担うべきだよ。仕事はその空いた時間で」「男の子だから泣かない!」無意識に身に付けてしまっているジェンダー構造に、気づくところから始めよう。

※ジェンダー・センシティブとは「ジェンダー平等を適切に理解する感性」を指す。

ジェンダーバイアスがもたらす影響

[女性を取りまく問題]

女性がケアを担うべきであるという性別役割分担意識がある。
●子ども虐待
●子どもの貧困
●介護、育児などのケア
●家族のことは家族が解決すべきという家庭規範
→ケアに従事すると、経済的自立ができない。
女性の自由な意志決定や自己実現が困難。

(高い割合で隠れている問題)
ドメスティック・バイオレンス
母子世帯の貧困

[男性を取りまく問題]

稼働能力で社会的に評価されがち
●長時間労働
●会社都合の転勤
●単身赴任
→男性中心型労働慣行に従うことが求められる。

近年では自分らしい多様な生き方を求める人も増加。
家族のあり方、生活のあり方、労働のあり方も画一的ではなくなってきた。
→しかし、制度や意識の変革など社会的な承認が十分になされておらず、生活基盤が揺らいでしまうことも指摘されている。

[ジェンダーという切り口で社会福祉問題と支援を考えること]

〈社会福祉問題〉
貧困や虐待、暴力被害、育児や介護のケアなど
ジェンダー・センシティブな観点から、具体的な社会福祉問題への支援を考える際は、自分の「これまでの経験」や「これからの人生」を考えることになる。

→すなわち、
社会のなかで不利を抱える人々の生活に寄り添うこと。
人権を尊重する具体的な実践方法を考えること。
それは、私たち自身が自分らしく生きるヒントにも繋がる。

少子高齢化によって
社会変容が求められる時代
= 社会構造を変える大きなチャンス!



実績と今後の活動予定

実践およびフィールドワークを基点とした実践的課題について、質的研究や実態調査、理論研究、社会的活動などを行ってきました。その成果は報告書や学会発表、論文、図書出版(共著)で公開しています。今後も継続して、ソーシャルワークにおける家族、女性への支援に焦点をあてて研究を進めていきます。

『ジェンダーからソーシャルワークを問う』(2020)横山登志子、須藤八千代、大嶋栄子編著、ヘウレーカ

地域や産業界、自治体に向けて

ソーシャルワーク実践は、個人や家族の問題解決を支援するだけでなく、地域での関係者のネットワーク、地域づくり、制度や社会規範の変革にむけた活動までの広がりを持っています。いくつもの困難を抱えた家族や女性に対する支援のあり方を、実践と理論の往還のなかで考え続け、質的研究を用いて探求しています。

地域企業の顧客ロイヤルティ構築及び発展に向けて

多様な人財の育成・活用の重要性について

航空会社で長年ホスピタリティを考察し実践してきた中で、個々の能力向上はもちろんのこと、チーム(組織)で成果を上げる意識醸成や具体的な仕組み作りの重要性を学び、PDCAサイクルを確立する活動を行ってきました。

現在は本学教員との副業で研修講師として企業に出向き、人事担当の方や受講生の方々と対話し、納得感のある意識変革や演習での実践体得を牽引すべく「共に学び合う」姿勢で取り組んでいます。



特任教授
矢川 美恵子
Yagawa Miko
経済経営学部 経営学科

キーワード
ホスピタリティ、コミュニケーション、ビジネスマナー、
社会人基礎力、チームビルディング



シーズ(研究)紹介

研究テーマ

「企業における人財活用の実情と就職前に身に付けておくべき能力要素についての継続的な考察」

ICT時代の労働市場は流動的ではありますが、AIには担えない普遍的な「人」の力に更に着目し、EQ(感情面や情緒面において健康で、かつ人間関係を適切にこなせる人格的能力)に関心を高め、行動化できる人財の育成輩出が望まれます。

ベースとなるホスピタリティ・マインドの醸成や他者理解、精神的経済的自律を促し、産学双方から継続的に支援することが目標です。

グローバル化、オンライン化が進む環境下、多様な人とのコミュニケーション力の向上は必須課題となっており、概念の理解、態度、TPOや文化の違いに合わせた表現方法、言葉遣いなど、実践的なコミュニケーションスキルを学修し体現化するカリキュラムを検討しています。

実績と今後の活動予定

ANA客室乗務員(1979年～2000年)
ANA客室乗務員管理職(2000年～2012年)
ANAビジネスソリューション研修講師(2012年～現在)

<講演・研修実績>
新入社員研修/接客マナー研修/コミュニケーション研修/チームビルディング研修/リーダーシップ研修/クレーム対応研修/管理職研修/ユニバーサルマナー研修 など
時間:1時間～7時間×2日間 受講聴講対象者:4名～230名

地域や産業界、自治体に向けて

時代の変革期において、北海道の豊かな土地や自然は何よりの宝であることを再認識しています。
北海道の地域特性やアイデンティティを生かし、様々な分野で、多様な人・動植物と資源を分かち合い共存発展する企業を数多く創出し、緩やかに経済発展していく社会が望ましいと考えます。
ジェンダー平等については、女性の強みや潜在的保有能力を更に引き出し、地域に根差して活躍する人財の育成に寄与したいと考えております。

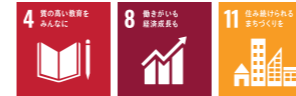
金融を知ると世の中がわかってくる

金融は世の中のあらゆる分野と繋がっています

アメリカの国際通貨政策について米財務省やFRBの歴史研究をしています。
金融・国際金融をゼミや講義で学生に話していくうちに、大学での勉強を世の中を知る上で役立ててほしいと思うようになり、教育手法の改善にも取り組んでいます。



准教授
吉川 哲生
Yoshikawa Tetsuo
修士(経済学)
経済経営学部 経営学科

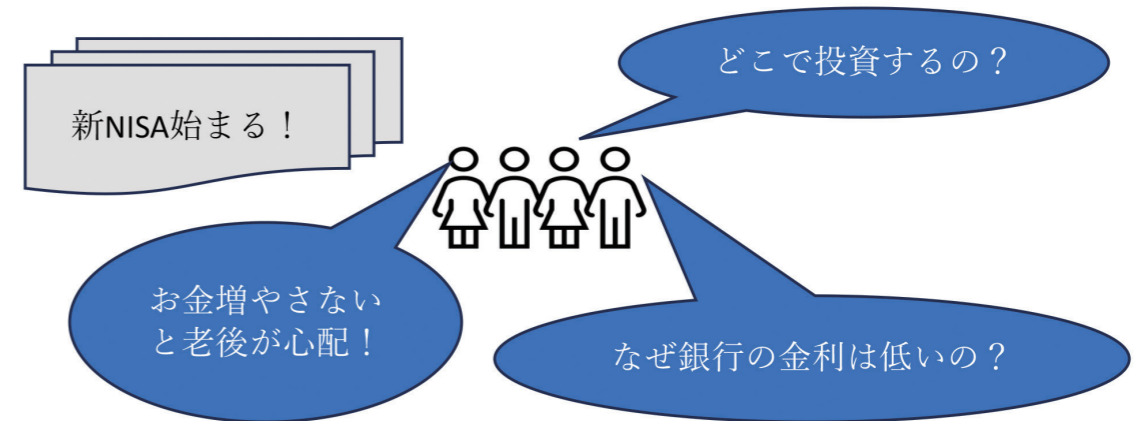


キーワード 金融、国際金融、金融政策、為替相場

シーズ(研究)紹介

例えば、2024年1月から「新NISAが始まりました。投資をしましょう」というニュースがありました。そもそも、なぜ投資をしないといけないのでしょうか?銀行預金は2024年1月現在0.001%の銀行がほとんどです。この金利で100万円を200万円にしようとするれば、約72,000年かかりますが、投資で毎年2%の利回りを得られれば約36年で200万円になります。3%だと約24年、4%だと約18年という計算になります。

一方で2023年、円安と資源高により物価が上昇しましたね。物価が2%上がれば、お金の価値は低下します。これがインフレですが、インフレの世の中ではますますお金を増やさないと生活が苦しくなります。給料がインフレ率よりも上がれば良いのですが、そうでなければ自分で増やすしかないのではないのでしょうか。



実績と今後の活動予定

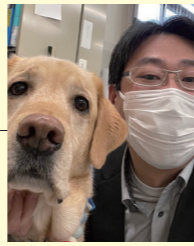
「変わる時代の金融論」(有斐閣)では金融政策について執筆しています。
中央銀行とは何をするとところなのか、超低金利時代の金融政策とはといった内容です。
江別市行政改革推進委員

地域や産業界、自治体に向けて

講義やゼミで以下の取り組みを行っています。
時事問題...大学で勉強することが社会生活でどのように活かせるのかを金融や経済のニュースを使って解説します。
Kahoot!...小学校などでも使われているクイズアプリ。予習復習ができています、確認することができます。
検索し放題のテスト...講義のテストは自力なら何でもありです。生活でインターネットを利用することは不可欠で、それによりもっと先の世界を勉強することに時間を使えます。

公衆無線LANの相互接続基盤 Cityroam (OpenRoaming) の展開

安全で利便性の高い公衆無線LANサービスの普及を目指して



職員
原田 寛之
Harada Hiroyuki

情報処理課の専門職員(情報処理技術者)として、学内のICT環境の設計・構築・運用などを担当しています。



キーワード
Wi-Fi, Passpoint, OpenRoaming, Cityroam, 公衆無線LAN

シーズ(研究)紹介

市街地で多く設置されている公衆無線LAN(Wi-Fi)には、暗号化されていないものやキャプティブポータル(接続時にWeb画面上での登録や認証を要求するもの)には、セキュリティ上の重大な問題が多数あることから、自分の認証情報でクライアント端末が自動的に接続可能なSSIDを探し安全なIEEE 802.1X認証により接続する、Passpointを用いた次世代の公衆無線LANサービスの普及が始まっています。日本国内ではセキュア公衆無線LANローミング研究会によるCityroamが、これらを世界で相互接続する国際的

な基盤としてWireless Broadband AllianceによるOpenRoamingが運用されています。

大学キャンパスを生涯学習などの目的で訪れる市民の方にキャンパス無線LANを安全に利用していただくため、また本学の構成員の市街地におけるICTを活用した研究教育活動を支援するため、Cityroam/OpenRoamingの国内外における仕組みの構築と普及のための研究開発を、国内外の研究者や事業者と共同で行っています。

社会の持続的発展に向けた大学キャンパスにおける OpenRoamingサービス展開事例



札幌学院大学(江別市)

- 在籍学生およそ3200名
- 2021年4月に札幌市厚別区に新札幌キャンパス開設
- 新札幌駅周辺の再開発プロジェクト(若者がまちや近隣住民と繋がる、新たなアカデミック街区)

⇒ 図書館やホール、産学連携拠点の市民利用を想定

札幌学院大学キャンパス内のWi-Fi環境(～2018年まで)

- 学生教職員は、eduroam※(エデュローム)にてWi-Fiを利用
- ※ 国内414機関・世界106か国(地域)が参加している教育機関や研究機関の間でキャンパスWi-Fiの相互利用を実現する仕組み

【国内eduroam加入機関(2024.2.28現在)】

＜国公立＞北海道大、北海道教育大、室蘭工業大、小樽商科大、釧路商科大、北道工業大、旭川医科大、公立ほくろ大、道庁高専、道庁高専、道庁高専

＜私立＞札幌学院大、麗女子大、北星学園大、北海道科学大、道庁高専、北海道教育大、北道大

＜その他＞北海道立総合研究機構(道経研)

↑ 世界中のeduroam加入機関構成員が相互利用可能

一般市民の方の利用(アカウント発行)は難しい(機関でゲストアカウント発行は可能であるが、手間がかかる)

本学の学生・教職員ならびに学術関係者と同等の安全なWi-Fiサービスを市民に提供することは、学生・教職員と市民活動の連携を効果的にし、双方によりよい成果をもたらす上で不可欠

どのように市民にWi-Fiサービスを提供すべきか?

暗号化・認証なしのサービス提供

- ⇒ 本人確認されておらず、インシデント発生時の追跡が困難
- ⇒ 通信経路が暗号化されていない

通信キャリアのWi-FiサービスをキャンパスWi-Fiに相乗り(本州の一部の大学)

- ⇒ キャリアと契約を結んでいない市民(格安SIM)・訪日外国人などのサービス利用が困難

eduroamと同じように、世界のどこかで発行されたアカウントを用いて、世界中で公衆Wi-Fiをローミング利用できるようにできないか?

- ⇒ 実証実験 City Wi-Fi Roaming (2016年)
- ⇒ セキュア公衆無線LANローミング研究会発足 (2017年)
- ⇒ 実証実験 第2回 City Wi-Fi Roaming (2017年6月-8月) 東日本も参加
- ⇒ 国内の認証連携基盤及びサービスを Cityroam と決定 (2018年6月)
- ⇒ **札幌学院大学キャンパス内の全てのアクセスポイントを Cityroam に接続 (2018年10月)**

市民へのWi-Fi接続をサポートできる大学の人員が(特に新札幌キャンパスには)いない

- ⇒ **世界の枠組みがWBA OpenRoamingとしてまとまる (2020年)**
- ⇒ **CityroamもOpenRoamingに参加**
- ⇒ **OpenRoaming事業者が発行するアカウントで誰でもキャンパスWi-Fiを利用可能な環境が整う**

札幌学院大学キャンパス内のWi-Fi環境 → eduroam + OpenRoaming

©Sapporo Gakuin University. All Rights Reserved.

実績と今後の活動予定

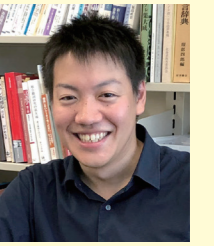
大学キャンパスを訪れる市民の方がキャンパス無線LANを利用いただけるように、公衆無線LANの相互接続基盤Cityroamに2018年に大学としては世界で初めてキャンパス全域の基地局を接続し(2020年よりCityroamを通じてOpenRoamingにも接続)サービス提供を開始しました。Cityroamを広く展開していくため、Wi-Fi事業者様やWi-Fi基地局メーカー様に、その中核技術であるPasspointや認証基盤についての技術的なアドバイスや開発支援を行っています。

地域や産業界、自治体に向けて

EUにおいては、全域で市民が利用できる公衆無線LANをWiFi4EUとして整備する取り組みが始まっています。電子化されたサービスへのアクセス手段を、様々な事情で自らのネットワークアクセス契約が難しい方々にも広く提供していくことは、社会基盤の維持に不可欠になりつつあります。誰もが利用できる通信インフラとして、Cityroam/OpenRoamingが実現する安全で利便性の高い公衆無線LANサービスの普及を通じて、広く社会に貢献することを目指して今後も活動していきます。

アイヌ語を探究する

危機言語・少数言語の記述と記録



講師
岸本 宜久
Kishimoto Yoshihisa
博士(文学)
経済経営学部 経営学科

言語学の立場からアイヌ語の研究をしています。とくに、鶴川地方でのアイヌ語のフィールドワークを通じて、言語・文化の記述(危機言語ドキュメンテーション)を行っています。また、地域の危機言語という観点から、日本語北海道方言や日本手話(とりわけ、北海道手話)についても関心をもって調査・記録に取り組んでいます。



キーワード
言語学、アイヌ語、危機言語、少数言語、北海道方言、日本手話

シーズ(研究)紹介

北海道むかわ町をフィールドに、アイヌ語の継承語話者(家庭などで自然にアイヌ語を獲得した話者)への言語調査を行ってきました。ここでは調査の様子を少しご紹介したいと思います。むかわ町には鶴川という大きな川が流れていて、その河口はシシャモがとれることで有名です。鶴川でのアイヌ語調査においても、シシャモ(susam)に関するさまざまなお話をうかがうことができました。まさにこの土地ならではの言語的、文化的な情報として貴重です。



図1. シシャモで有名な鶴川の河口域

主な調査協力者は、むかわ町のご出身でアイヌ語の継承語話者である吉村冬子さん(大正15年生まれ)です。「ひと言葉でも多くきなさい」という継承への強いお気持ちをもって調査に臨まれ、数えきれないほどの語彙や談話、文法的な判断についてお教えいただきました。

もちろん、言語に関すること以外にも、経験に基づく豊かな文化的・歴史的知識を数多く教えていただきました。

実績と今後の活動予定

- 2017年～2018年 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
口承文芸視聴覚資料作成事業編集委員会委員
- 2020年～2024年 日本学術振興会科学研究費助成事業:若手研究
「アイヌ語鶴川方言のフィールド調査およびデータの公開」



図2. アイヌ語の調査風景

図3. tar(背負い紐)の使い方を実演する調査協力者

図4. itese(ござ編み)をする調査協力者

調査で得られた貴重な言語・文化的な情報は、アイヌ語の言語研究への活用のみならず、地域での継承に役立てていただけるよう、公開に向けたデータの整理にも取り組んでいきたいと思っています。

この場を借りてあらためて、吉村冬子さんご家族の皆さま、お世話になった皆さまに深く感謝申し上げます。

地域や産業界、自治体に向けて

2012年以降、北海道の鶴川地域で継続的なアイヌ語のフィールドワーク(言語調査)がおこなってきました。調査を通じて得られたアイヌ語・アイヌ文化に関する貴重なフィールドデータは、学術研究のみならず、地域やコミュニティにおけるアイヌ語・アイヌ文化の継承や学習においても活用されるよう、公開にむけて取り組んでいます。

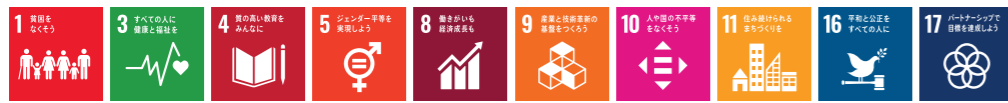
ダイバーシティ・インクルージョン時代の 人材養成と国家再生

特別支援教育、職業リハビリテーション分野でのイノベーションとCCRC



教授
田中 敦士
Tanaka Atsushi
修士(教育学)
人文学部 人間科学科

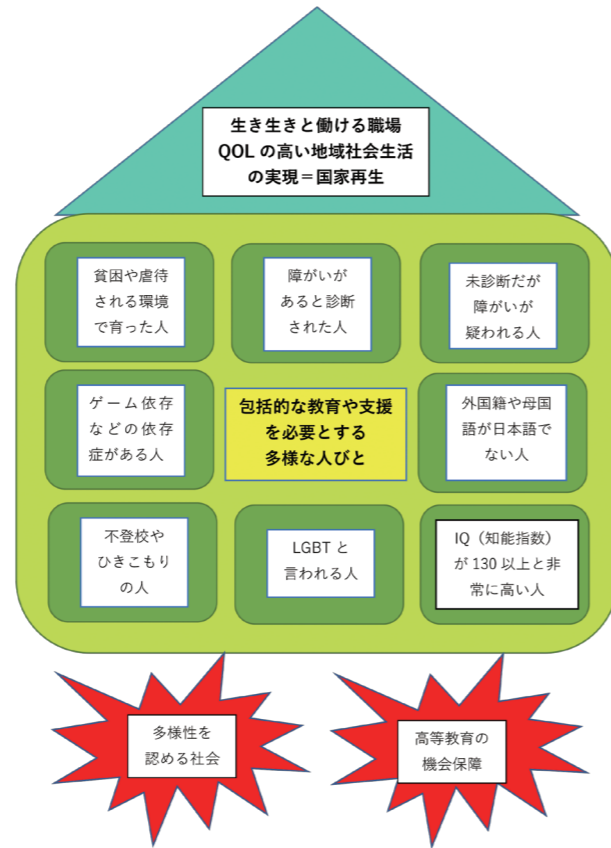
厚生労働省障害者雇用対策課の行政研究を5年間、沖縄での特別支援教育教員・職リハ人材の養成を17年間やってきました。真に意見を言い合える日韓関係を目指して、アジアヒューマンサービス学会を日韓共同で創設し、理事や3種類の学術誌(AJHS、TRR、JIE)の編集委員長を務めました。特別支援教育、職業リハビリテーションというわが国ではマイナーな2つの学問分野において、今度は北海道からアジアに発信していきます。



キーワード
ダイバーシティ教育、特別支援教育、職業リハビリテーション、障害者雇用、ヒューマンサービス、ジョブコーチ

シーズ(研究)紹介

わが国の特別支援教育は、国際的にみると残念ながら後進国です。アジアの中でも韓国や台湾などから学ぶことがたくさんあります。少子化社会においては、これまで社会から排除されてきた「包括的な教育や支援を必要とする多様な人びと」の力が必ず必要になります。彼らの多様性を認められる成熟した社会になり、彼らの大学進学之道が開ければ、新たな労働力が確保されるだけでなく、一部は特異的な能力を開花させ、国家に多大な貢献をしてくれることでしょう。社会経験豊富な高齢者の社会参加も少子化に伴う人材不足を補い、豊かな健康長寿社会の実現に近づきます。CCRC(Continuing Care Retirement Community)の研究も産学官連携で進めたいと思っています。



実績と今後の活動予定

- 1997～2002年 日本障害者雇用促進協会 研究員
- 2003～2018年 沖縄県教育委員会 教育職員免許法認定講習講師
- 2003～2018年 沖縄県立特別支援学校 評議員(毎年1～3校)
- 2003～2019年 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 客員研究員
- 2011～現在 Asian Society of Human Services Director
- 2014～現在 日本発達障害学会 評議員
- 2015～現在 日本特殊教育学会 「特殊教育学研究」編集委員
- 2019～現在 なる地方職親会 ジョブコーチ養成研修講師

- 2020～現在 札幌市教育委員会 札幌市幼児アセスメント委員会 委員
- 2021～現在 北海道教育委員会 北海道教科用図書選定審議会 委員
- 2021～現在 北海道教育委員会 北海道教員育成協議会 委員

地域や産業界、自治体に向けて

令和元年度に着任しました。北海道の地でこれまでの経験とノウハウを生かして貢献できるよう、開拓者精神で頑張ります。発達障がいなど多様な人々が大学で生き生きと学び、社会に貢献できる人材養成を目指します。特別支援教育、職業リハビリテーション分野での産学官連携とCCRCにつながる研究実践を目指していきます。障害者雇用の促進とQOLの向上に貢献したいと願っています。

史料から歴史を探る



教授
山田 伸一
Yamada Shin'ichi
修士
人文学部 人間科学科

日本の近現代史が専門です。主な対象地域は北海道ですが、周辺の地域にも関心をもっています。過去の公文書、新聞、雑誌などの文書資料と現代の人の仲立ちをするのが自分の役割だと思っています。

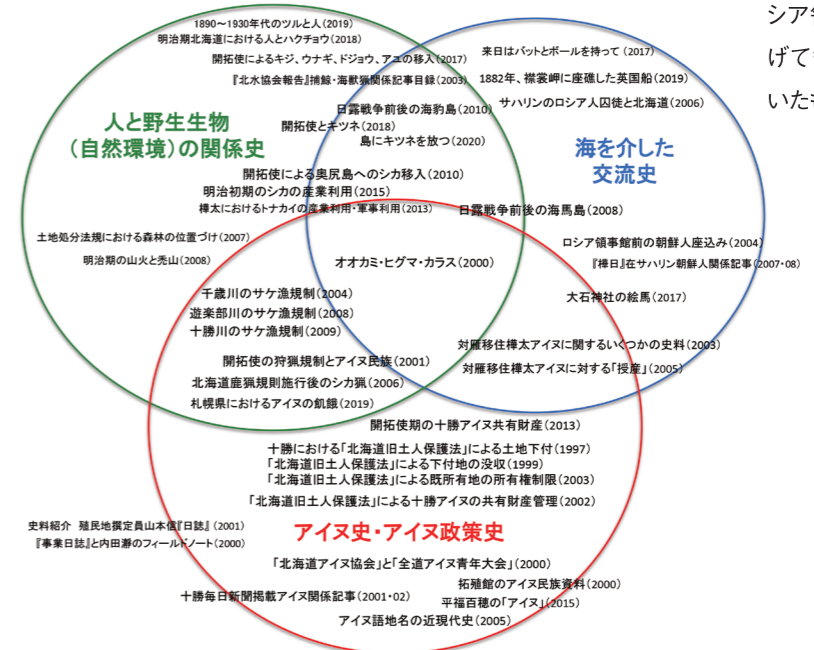


キーワード
北海道、アイヌ民族、自然環境、野生生物、地名、樺太(サハリン)

シーズ(研究)紹介

取り組んできた研究課題は、近現代史のなかでもいろいろですが、自分では①アイヌ民族の歴史、②人と野生生物(自然環境)の関係史、③海を介した交流史の三つの柱があると思っています。その三つが切れて独立しているのではなく、二つないし三つにまたがったり、絡み合っていることも多いです。

比較的大きな主題では、「北海道旧土人保護法」によるアイヌ民族への土地下付、明治初期のシカ猟規制やサケ漁規制とアイヌ民族の関わり、アイヌ語地名の近現代史などを研究してきました。その他、現在の江別市対雁に強制移住された樺太アイヌの歴史、北海道開拓と森林伐採との関わり、養狐業と鳥々へのキツネの放逐、ロシア領サハリンから北海道に逃げてきた囚人などについても書いていたものがあります。



実績と今後の活動予定

1996年から北海道開拓記念館(現在の北海道博物館)に勤め、北海道と周辺地域を対象とした研究活動のほか、展示会の企画などに携わってきました。2022年4月から札幌学院大学人文学部に勤務しています。北海道内をはじめ各地出身の学生に接する機会が増えたこともあり、もっといろんな地域のことを知りたいと思っています。道内はもちろん、国内各地、世界のことも。歴史学の枠にとらわれず、自然環境についての理解を深めていきたいという思いも強くなりました。

地域や産業界、自治体に向けて

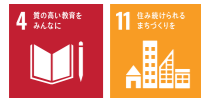
歴史を知ることが、現在や未来を、奥行きや深みをもって理解し考えることにつながります。「そんなことを知って何の役に立つの?」と思われがちな事柄を大事にして、底力を養いたい。1997年から江別市大麻に住んでいます。勤務地が所在するからというだけでなく、一市民としての立場からも、地域とのつながり合いを大事にしたいと考えています。文京台や江別市の歴史について共に学んで理解を深めていくような場をもち、魅力的な地域を創っていききたいものです。もちろん、江別市以外についても。札幌以外の地域を元気にすることが、北海道の重要な課題だと思います。

地域文化遺産の保存と活用



教授
臼杵 勲
USUKI Isao
博士(歴史学)
人文学部 人間科学科

考古学研究とともに文化財行政に携わってきました。現在も地域文化財の保存・活用のお手伝いをしています。地域の文化遺産の継承と地域活性化への活用を日々考えています。



キーワード 文化遺産、地域活性化

「文化財の保存と経済活動の両立」を軸とした地域社会の活性化



講師
大塚 宜明
OTSUKA Yoshiaki
博士(史学)
人文学部 人間科学科

考古学を専門に調査研究に取り組んできました。考古学はフィールド(地域)と密接に結びついた学問ということもあり、人口減少などの大きな問題を抱える地域に大学および研究活動がどのように貢献できるのかを、地域住民の方々と一緒に「文化財の保存と経済活動の両立」を観点に考えながら、地域社会の課題解決に取り組んでいます。



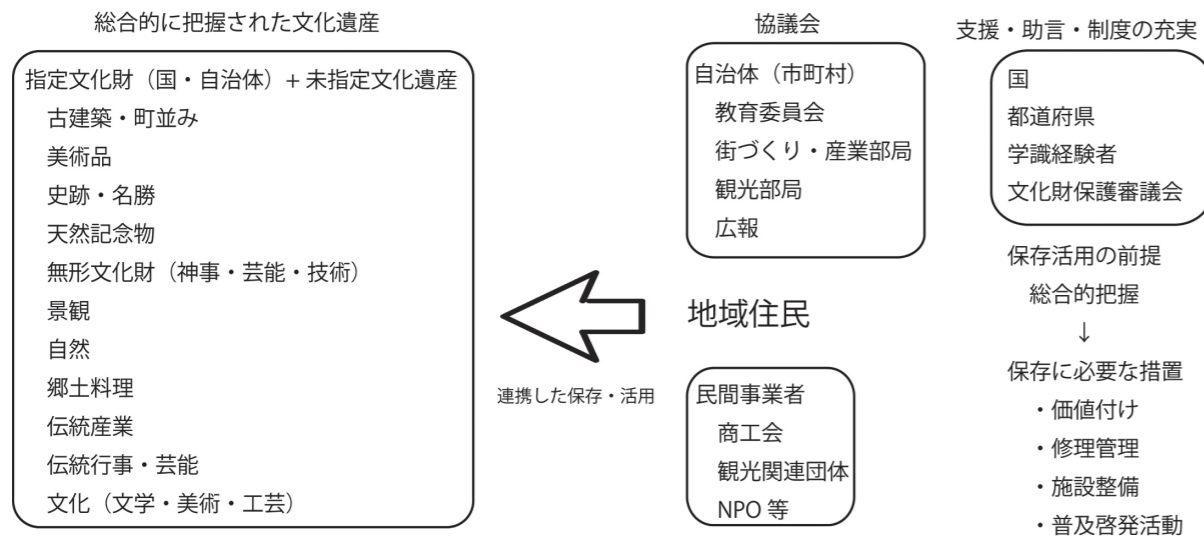
キーワード

地域社会の活性化、サイエンス・コミュニケーション、文化財、経済活動

シーズ(研究)紹介

少子高齢化・人口減少の中で、地域の持つ文化遺産の継承は困難に直面しています。一方、教育、街づくり、観光、地場産業の振興、さらには災害対策・復興など、様々な地域課題に、文化遺産はヒントを与えてくれます。歴史まちづくり法の制定や文化財保護法の

改正により、それらを具体化させる方向性が打ち出されました。地域の文化遺産を着実に保存・継承し、現代社会において有効に活用することにより地域活性化に貢献する道筋を検討しています。



実績と今後の活動予定

- 2000年4月～2002年3月 文化庁記念物課文化財調査官
- 2014年7月～2018年6月 北海道文化財保護審議会会長
- 2014年9月～現在 日本学術会議連携会員
- 文化財の保護と活用に関する分科会
- 2015年9月～2017年3月 新ひだか町シベチャリ川流域チャシ跡群保存管理計画策定委員会 副委員長
- 2015年11月～現在 小樽市文化財保護審議会 委員
- 2015年11月～2019年3月 斜里町チャシコツ岬上遺跡調査検討委員会 委員長
- 2016年4月～2018年3月 小樽市歴史文化基本構想策定委員会 委員
- 2017年8月～ 中標津町町内遺跡調査協力
- 2018年10月～現在 上ノ国町史跡上ノ国館跡史跡整備検討委員会 委員長

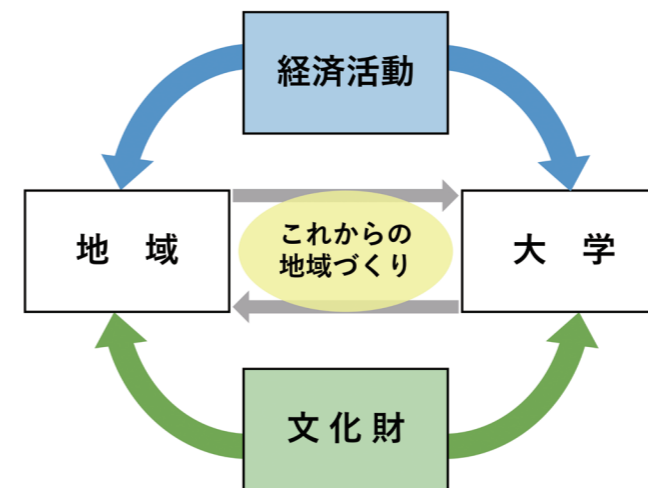
- 2019年7月～現在 厚沢部町史跡松前氏城跡館跡整備検討委員会 委員長
- 2020年2月～2021年3月 斜里町遺跡調査活用検討委員会 委員長
- 2022年6月～現在 北海道教育庁・世界遺産インタープリテーション等調査研究事業・業務指導委員会、委員長
- 文化庁・埋蔵文化財発掘調査等技術検討委員会、委員長

地域や産業界、自治体に向けて

文化遺産の継承と活用には、市民・民間団体・産業界・教育研究機関などの幅広い参加が求められています。北海道の歴史・文化の産物を現代に活用することで地域を元気にする方法をともに考えていければと思います。

シーズ(研究)紹介

地域にある文化財。学問上、著名で重要な文化財も、現在地域に生活する人々にとって疎遠な存在になりつつあります。地域の財産である文化財の価値を地域住民の方々と共有し、「文化財の保存と経済活動の両立」を観点に地域社会の活性化の新たな材料とするとともに、中長期的な視点から地域社会の維持・発展の中核となる担い手の育成を目指しています。



発掘調査地での地域連携授業風景



教室での地域連携授業風景

実績と今後の活動予定

- 2006年4月～2007年3月 神奈川県大磯町町史編纂委員会調査協力員
- 2017年6月～現在 東京都世田谷区史編さん委員会 専門部会委員
- 2019年～現在 上ノ国町史跡上ノ国館跡史跡に調査協力
- 2019年～現在 北海道常呂郡置戸町 ふるさと教育事業に協力
- 2023年4月～現在 上ノ国町史編集委員
- 他にも、北海道を中心に多数の自治体と協力し、研究・教育活動を進めています。

地域や産業界、自治体に向けて

地域の課題の一つである人口減少や人口の少なさも、顔の見える関係で相互に意見交換する上では大きなメリットがあります。地域の文化財のもつ魅力を引き出し、それを材料に地域住民の方々と意見を出しあいながら「これからの地域像」を育てていくことができると考えています。

地域活性化とアイドルの活用

いまや地域から全国へ羽ばたいていった若者は地域の宝だ



教授
神谷 章生
KAMITANI Akio
修士(法学)
法学部 法律学科

行政学、公共政策論、政治思想を担当しています。

出身は大阪ですが、名古屋、愛媛、三重と渡り歩いて、1999年に北海道にたどり着き(岩見沢)、すでに20年を超えました(現在札幌)。この北海道をいかにして魅力ある土地にするかについて考察し実行しています。

キーワード

地域、活性化、アイドル、集客、継続性、移住定住



シーズ(研究)紹介

前提として現在のアイドル文化を支えている年代が10代から60代ときわめて広範囲の年代であること。かつてのように高齢化すれば演歌やムード歌謡に流れていくという時代ではない。これを基底条件に、2000年代後半「会いに行けるアイドル」として登場したAKB48は若者ではなくそれなりに財力のある中高年層に支持された。

またもいるクローバーZのファン組織であるもののふも中高年層が多い。このポイントは地方でコンサートやイベントを開催すると数万人単位で流入するということだ。地域を代表するアイドルユニットが全国区の人気を勝ち取るならば大きな経済効果、人的流入効果があると考えられるゆえである。

実績と今後の活動予定

いくつか考えているが、ひとつは北海道から流出し全国区で活躍しつつあるタレントを出身地と結びつけ地域活性の起爆剤とすること。札幌ではなく、道内の過疎地域出身者と全国を結びつける。観光大使、親善大使など。ふたつめはその人物を軸に過疎地域でイベントやコンサートを開催する。おそらく300~500人くらいが全国から集結する。3つめは以上2つを達成することで、周辺の地方中核都市で通常のコンサートを開催する。

地域や産業界、自治体に向けて

北海道からアイドルやタレントを夢見て実際にオーディションを受けている若者はどれくらいいると思いますか。もちろん正確な数はわかりませんが、2018年10月本学の講演に招いたNGT48支配人は新潟に80人は書類を送ってきたと言っていました。地方都市新潟でその数だとすると三大都市圏だとその数倍、東京だと10倍くらいはいるかもしれません。そういった若い有意な人材をみすみす首都圏はじめとする他都市に奪われるのか、それとも道内に根付いてここから全国へ発信していくのか、喫緊の課題であると思っています。現在、人口の自然増は難しく社会増を目指すとするならば自然や気候といった北海道の魅力以外に、若者がワクワクするような北海道を作ることが必要だと考えています。

ソーシャルビジネスによる地域創生

社会課題をビジネスで解決

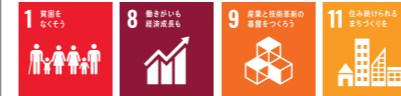


教授
河西 邦人
Kawanishi Kunihiro
修士(商学)
学長

SDGs(持続可能な開発目標)に代表されるように社会には多様な課題が存在し、それらを解決しなければ持続可能な社会を構築することはできません。特に日本は人口の減少に直面し、従来の地域づくりだけで持続可能な社会を構築するのは困難です。そこで、21世紀になって注目されているのが、社会課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス、地域社会の課題を解決するコミュニティビジネスです。市場メカニズムだけではなく、共感、共有、循環といった理念を持つソーシャルビジネス、コミュニティビジネスを活用した地域創生を研究しています。

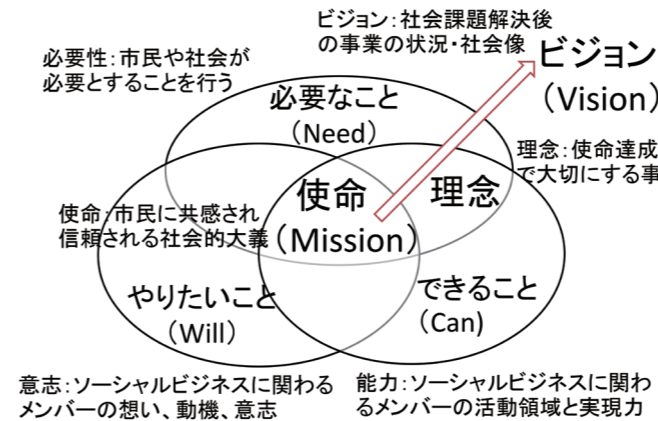
キーワード

SDGs、ソーシャルビジネス

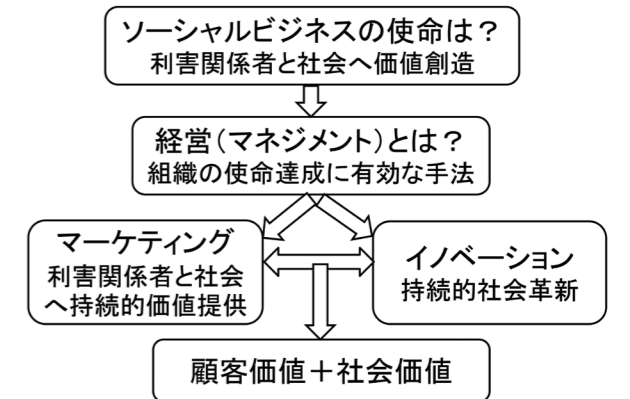


シーズ(研究)紹介

ソーシャルビジネスの使命とビジョン



ソーシャルビジネスの経営の本質



実績と今後の活動予定

- 2008年~現在 北広島市コミュニティビジネス・アドバイザー
- 2009年~2017年 北海道公益認定等審議会会長
- 2012年~2021年 札幌市と共催による「さっぽろソーシャルビジネススクール」運営
- 2013年~現在 北広島市商工業審議会会長
- 2015年~現在 浦河町地方創生推進会議委員
- 2015年~現在 NPO法人北海道NPOバンク理事長
ソーシャルビジネスの成功事例を分析し、地域創生に貢献できるソーシャルビジネスの戦略を研究します。

地域や産業界、自治体に向けて

ゼミ、授業、企業との共同研究を通じて道内各地へ調査に行きます。また、PBLと呼ばれる課題解決型教育の一環として自治体と連携し、地域創生に関するアンケート調査やヒヤリング調査を行い、課題解決のための住民向けワークショップ、商品開発を行っています。また、高校生、大学生、社会人の起業家育成教育にも取り組んでいます。

現代社会におけるエイジングとケアの可能性

エイジング(老い)と向き合い、共に支え合う社会の構築をめざす

認知症への関心から、介護保険法成立と同時に研究を開始し、高齢者保健福祉政策の展開を追いつつ、老いとそれをめぐる家族や社会の変化について論考してきました。最近の研究課題は、社会学におけるライフヒストリー、社会福祉におけるフェミニスト・ソーシャルワーク、歴史学の一分野である地域女性史、これらに一貫する「生」に対する「痛覚」を高年齢福祉の方法論として位置付けることです。教育面での展開としては、主としてゼミナールにおいて、江別市大麻地区や札幌市もみじ台地区での地域活性化にむけたフィールドワークを継続的に実施しています。



准教授
新田 雅子
Nitta Masako
修士(社会学)
人文学部 人間科学科



キーワード

エイジング(老い)、高齢者福祉、ケア(介護、介助等)、ライフヒストリー、女性史、地域(コミュニティ)

シーズ(研究)紹介

エイジズム(老人差別)の克服を目指して米国で始まった社会老年学の最大の成果のひとつは、高齢者の多様性の発見でした。老いが誰にでも等しく訪れるということの尊さと、そのプロセスが極めて個別多様であること、この両義性についての認識なしに「人生100年時代」に正しく向き合うことはできません。老いがもたらすダイバー

シティを担保しつつ、高齢期に誰もが抱える経済的・社会的・肉体的・心理的課題に社会全体としてどう向き合うか。それは社会的公正ないし社会正義の問題であり、倫理哲学の問いであり、もちろん経済的かつ政治的な課題でもあります。私は老いゆく個人の生という視点に立脚して、それを考え続けています。

アプローチ(視点と方法)	研究対象	(学術研究以外の) ソーシャルアクション
<ul style="list-style-type: none"> 福祉社会学 社会老年学 ライフヒストリー 女性史 フェミニズム など 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の老い 社会の高齢化 老人保健福祉政策 介護保険制度 孤独死と地域 相互行為としての介護 	<ul style="list-style-type: none"> シニア向け、住民向け講座の講師 研修会やワークショップの講師 行政計画策定等の委員 世代間交流の企画 など

実績と今後の活動予定

2014年～2018年 北海道福祉サービス運営適正化委員会苦情解決委員
2016年～2018年 江別市介護保険事業計画策定等委員会 委員長
2019年～現在 江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会委員

地域や産業界、自治体に向けて

シニアの就労、生涯学習、介護予防、フレイルリティ、認知症、在宅ケア、孤独死——老いにまつわるさまざまな今日的課題を、常に変化する「プロセス」として見つめるとともに個と個あるいは個と社会との「関係」という視点で捉える(=すなわち、「自分事」として考える)ための学びを、さまざまな人(介護福祉職、一般市民、学生など老若男女)に対し、さまざまな場(学内外での講義、実務者研修、市民講座、町内会自治会等)で実践しています。研究室や教室以外での人との出会いは、私にとっても大切な気づきの機会です。

持続可能な地域創生のための「地域経営学」の学術的理論構築

—地域価値創造のための「長期・短期の課題設定とその解決」に向けて—

「経済学(金融論)の研究」から「経営学・会計学・マーケティングの研究」へ進み、現在は、諸科学の最先端の研究成果・知見を取り込んだ新たな学問領域である「地域経営学」の学術的理論構築と共に、持続可能な地域社会の創造のための「地域経営学」の実践的な課題に取り組んでいる。



名誉教授
藤永 弘
Fujinaga Hiroshi

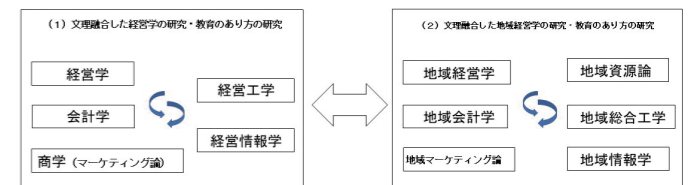


キーワード

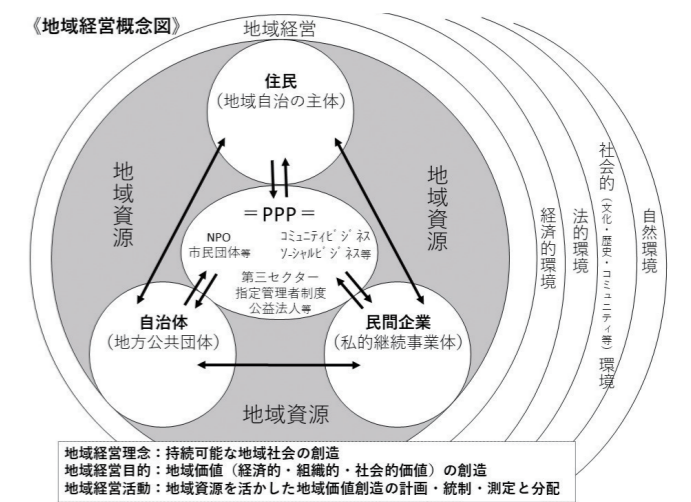
地域経営学、持続可能性、地域創生

シーズ(研究)紹介

①経営学・会計学・商学(マーケティング)・経営工学・経営情報学の「融合(文理融合を含む)した経営学」の研究・教育のあり方の研究」



②有形・無形の地域特性・地域資源を活かした地域価値の創造のための「地域経営学」の研究・教育のあり方の研究」



③新しい時代における「大学の経営・研究・教育・地域貢献のあり方の研究」(共同研究)

④新しい時代における「自治体のあり方の研究」(共同研究)

実績と今後の活動予定

1959年～2008年 札幌学院大学専任講師・助教授・教授
1981年～2005年 札幌学院大学会計学研究所長
1988年～1989年 ドイツ・マンハイム大学客員研究員
1991年～1995年 札幌学院大学商学部長
2006年～2020年 日本学術会議連携会員
2008年～現在 札幌学院大学名誉教授
2009年～2012年 日本会計教育学会会長
2008年～2016年 青森公立大学大学院教授
2013年～2016年 青森中央学院大学大学院特任教授
2016年～現在 地域経営未来総合研究所長
2019年～現在 特定非営利活動(NPO)法人地域活性化貢献会議監事
2020年～現在 地域経営学会会長

地域や産業界、自治体に向けて

①地域経営学とは、持続可能な地域社会の創造を地域経営理念として、地域住民の視点から、地域の特性、地域の有形・無形の資源を活かした地域価値の創造のために長期・短期の課題設定とその解決を図るための科学的知識の体系である。
②このような地域経営学の定義から、持続可能な地域社会の創造のための「地場産業の振興と新規産業の導入」、「新規起業と起業育成」、「事業承継と事業後継者育成」の研究と地域社会の現場での具体的な指導を行っている。
③地域創生に向けての企業経営および地域経営(マネジメント・アカウンティング・マーケティング・デジタル化の統合した企業経営および地域経営)、起業などに関する各種公開講座の企画と運営 等

ソフトウェア工学と地域づくり



教授
渡邊 慎哉
Watanabe Shinya
博士(工学)
経済経営学部 経営学科

プログラミング言語や分散計算モデル、ソフトウェア工学に関する研究活動を経て、現在は地域でのIT活用を主なターゲットとしてIoTやAIの活用など、ITの応用分野を主に研究しています。

キーワード
ソフトウェア工学、まちづくり、地域情報、IT活用、デジタルシティ



シーズ(研究)紹介

1.ソフトウェア工学の地域づくりへの応用

ソフトウェア工学は高品質なソフトウェアを設計・構築するための様々な方法論を研究する分野です。一見地域づくりとはかけはなれた分野のように感じられますが、ソフトウェアを設計・構築すること、地域を作っていくことの間には類似点が多数存在します。(図1)は街を構成するパーツをソフトウェアパーツに見立てて、パーツ同士の関係を構造的に表現したものです。

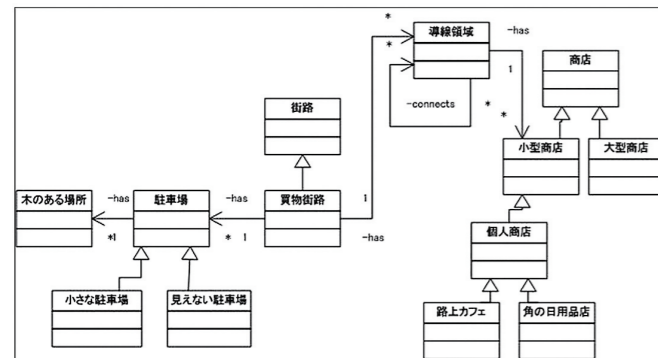


図1 地域パーツの構造的表現

2.地域デジタルアーカイブ

地域の文化や歴史をデジタル化して蓄積し、それらを公開したり分析したりするための技法を研究します。実績としては、江別市にご協力いただき広報えつのために撮影された昭和27年からの写真(フィルム)を2万枚デジタル化してアーカイブしました。また、江別の街並みを後世に伝えるためのコミュニティ設立にたずさわりました。



図2 地域デジタルアーカイブの閲覧



図3 地域デジタルアーカイブの時系列表示

実績と今後の活動予定

- 2004年~2007年 江別ブランド事典プロジェクト参加
- 2004年~現在 江別経済ネットワーク副代表幹事
- 2005年 GISに関する共同研究

地域や産業界、自治体に向けて

地域は経済・防災・医療・文化・歴史・教育など様々な分野でITを活用できる土壌があります。長年にわたってITの研究に関わってきた研究者として地域づくりに貢献できればと思っています。

持続可能な生産と消費

社会的課題を解決するビジネス



教授
橋長 真紀子
Hashinaga Makiko
博士(教育学)
経済経営学部 経営学科

金融機関、消費者教育支援センター、長岡大学を経て現職。日本証券業協会金融・証券教育支援委員会公益委員他。専門は、消費者行動、消費者教育、金融教育。

主な業績:『パーソナルファイナンス教育の理論と実証—大学生の消費者市民力の育成—』(慶應義塾大学出版会、2018)、『新しい消費者教育—これからの消費生活を考える—』(慶應義塾大学出版会、2016)、“The Effectiveness of Personal Financial Education for College Students: Analysis of a University in the Unites States”『消費者教育』(第33冊、2013)などがある。

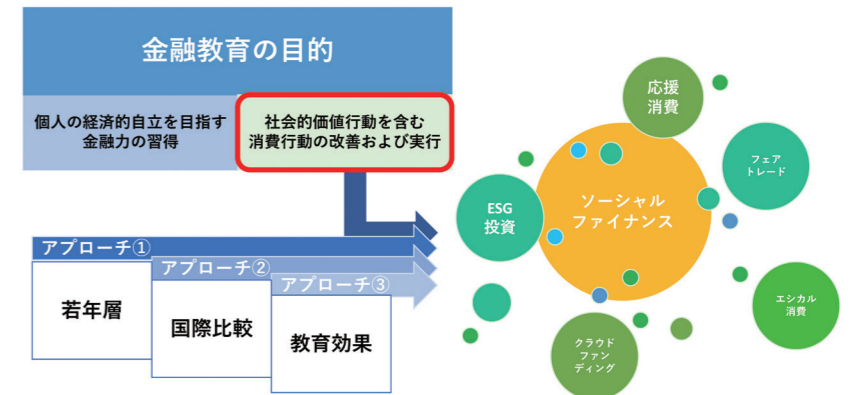


キーワード
貧困をなくそう、飢餓をゼロに、人や国の不平等をなくそう、つくる責任つかう責任、平和と公正をすべての人に、パートナーシップで目標を達成しよう

シーズ(研究)紹介

長年、若年層の健全な金融行動を促す金融教育について、国際比較研究や教育の効果測定など多面的に研究してきた。そこで明らかにされた点は、社会的価値行動の育成に寄与する効果的な教育プログラムのあり方であり、金融教育の目的は、個人の経済的自立を目指す金融力の習得と社会的価値行動を含む消費行動の改善および実行の2つがあることを実証した。近年は、金融の社会性に着目し、社会性と収益性の両方を追求したソーシャルファイナンスへ投資する消費者の特性や志向性に関する国際比較研究に取り組んでいる。

SDGs時代の消費行動/金融行動



実績と今後の活動予定

- 2019年 6月 札幌学院大学人文学部公開講座・江別市民カレッジ講座・道民カレッジ連携講座「SDGs時代で求められる社会教育—社会活動家からの提起—消費者教育とフェアトレード」講師
- 2019年 8月 北海道新聞社主催・北海道共催 道新フォーラム「北海道の未来とSDGs」パネリスト
- 2019年 10月 日本消費者教育学会主催・札幌市共催「持続可能な生産と消費を考える—北海道の事例から—」ファシリテーター
- 2019年 10月 江別市主催・ふるさと江別塾「SDGsとフェアトレード」講師
- 2019年 10月 江別市民環境講座「持続可能な生産と消費—フェアトレードの事例から—」講師
- 2019年 10月 日本全国消費生活相談員協会北海道支部主催「地域に根ざす消費者教育セミナー:キガルな買い物、それってエシカル?—ファッションから見たSDGs—」ファシリテーター
- 2019年 9月~2019年10月~ SDGs Quest みらい甲子園 北海道実行委員会委員長
- 2019年 9月 国民生活センター 消費者教育学生セミナー アドバイザー講師
- 2019年 10月 札幌消費者協会主催 連続時事講座「フェアトレードはなぜ必要か」講師
- 2021年 1月 苫小牧市教育委員会・苫小牧市女性団体連絡協議会主催令和2年度苫小牧市民塾「エシカル消費—消費者市民の育成を目指した教育実践から—」講師
- 2021年 8月 北海道消費者協会主催 令和3年度消費生活リーダー養成講座「エシカル消費で作る新たな日常」講師

- 2021年 9月 日本消費者教育学会・国民生活センター主催 消費者教育学生セミナー アドバイザー講師
- 2021年 12月 札幌消費者協会主催 消費生活講座「生活の質を高める新しい日常とは」講師
- 2022年 3月 財務省北海道財務局他主催 「高校生と先生のための北海道における金融教育シンポジウム」コーディネーター
- 2022年 8月 北海道消費者協会主催 令和4年度消費生活リーダー養成講座「エシカル消費で作る新たな日常」講師
- 2022年 9月 日本消費者教育学会・国民生活センター主催 消費者教育学生セミナー アドバイザー講師
- 2022年 10月 苫小牧市主催 第49回みんなの消費生活展「成年年齢引き下げの現状と課題—若年消費者の自立支援を考える—」コーディネーター
- 2023年 3月 さっぽろ市民カレッジ主催 2023冬期講座「フェアトレードから社会教育の実践『フェアトレード大学』としての活動」講師
- 2023年 8月 北海道消費者協会主催 令和5年度消費生活リーダー養成講座「エシカル消費で作る新たな日常」講師

地域や産業界、自治体に向けて

「エシカル消費」(倫理的な消費)とは、環境、社会、人権に配慮した消費のことをいいますが、近年このような自らの消費行動が与える影響を考えた生活する消費者が増加しています。消費者の社会的価値行動の研究結果から、持続可能な生産と消費について考える講座を行います。

Team Power Based on the Upper Echelons Theory

Effects of Top Management Team on Corporate Sustainability



講師
黄 昕 HUANG Xin
博士
(Ph.D in Business Administration
(Osaka University))
Faculty of Economics and Business
Department of Business Administration

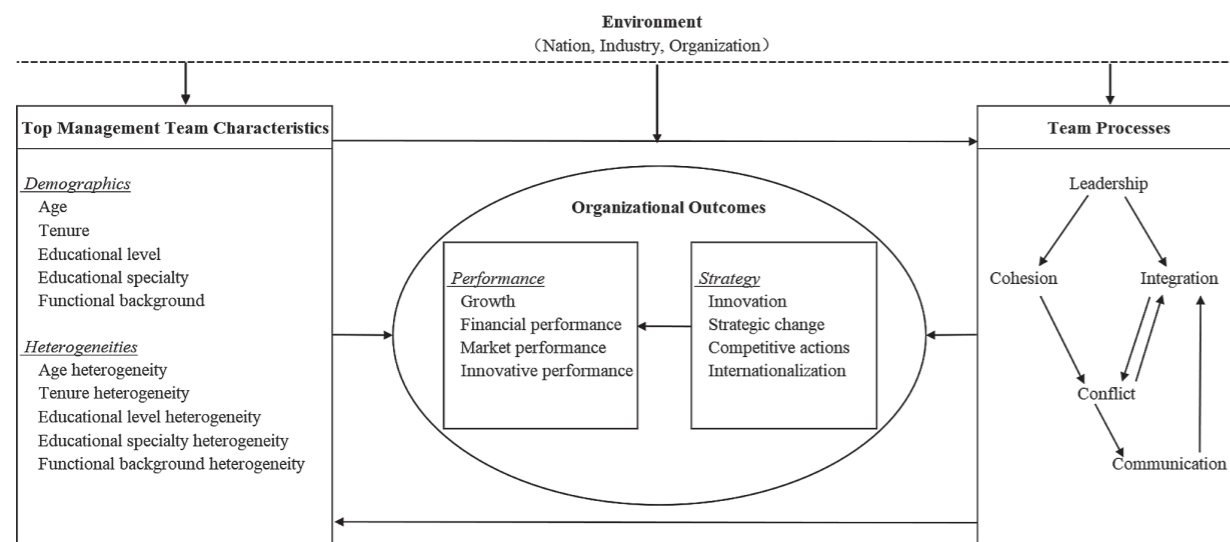
Completed doctoral course in the Department of Business and Management at Osaka University.
Research on how top management team characteristics affect corporate activities and firm performance.



キーワード

Top Management Team, Innovation, Corporate Social Responsibility, トップマネジメントチーム、イノベーション、社会的責任

シーズ(研究)紹介



A circle model of top management team

Source: Xin Huang, Koichi Nakagawa (2017), Top management team characteristics and team processes: A review, Osaka Economic Papers, 67(2-3-4), p.28.

実績と今後の活動予定

- 2014. Best Paper Award (Finalist). The 12th World Congress of the International Federation of Scholarly Associations of Management.
- 2015. Best PhD Paper Award. The 32nd Annual Conference of the Euro-Asia Management Studies Association.
- 2015. Effects of top management team characteristics on enterprise innovation activities: Evidence from the board for small and medium-sized enterprises in China. Journal of Business Management, (35), 67-79.
- 2017. Top management team characteristics and team processes: A review. Osaka Economic Papers, 67(2-3-4), 1-39.
- 2019. Impacts of top management team characteristics on corporate charitable activity: Evidence from Chinese listed companies. Journal of International Business and Economics, 7(2), 60-73.
- 2020~. Research on effects of diversity and female executives in top management teams on corporate behavior and performance

地域や産業界、自治体に向けて

Research provides clues to forecast corporate movement and growth through observable data. In recent years, I have conducted some courses at local high school irregularly.

札幌学院大学社会貢献シーズ集 キーワード索引

1 Cityroom.....	原田寛之 18P	40 公衆無線LAN.....	原田寛之 18P
2 Corporate Social Responsibility.....	黄昕 30P	41 高齢者福祉.....	新田雅子 26P
3 Innovation.....	黄昕 30P	42 国際金融.....	吉川哲生 17P
4 IT活用.....	渡邊慎哉 28P	43 子育て支援.....	大澤真平 03P
5 MOT(技術経営).....	末富弘 14P	44 こども.....	井上寿枝 05P
6 OpenRoaming.....	原田寛之 18P	45 子ども・若者支援.....	井上大樹 10P
7 Passpoint.....	原田寛之 18P	46 子ども虐待.....	大澤真平 03P
8 SDGs.....	河西邦人 25P	47 こども食堂.....	井上寿枝 05P
9 Top Management Team.....	黄昕 30P	48 子どもの権利.....	大澤真平 03P 井上大樹 10P
10 Wi-Fi.....	原田寛之 18P	49 子どもの貧困.....	大澤真平 03P 井上大樹 10P
11 アートセラピー.....	佐野友泰 12P	50 コミュニケーション.....	矢川美恵子 16P
12 アイドル.....	神谷章生 24P	51 サイエンス・コミュニケーション.....	大塚宣明 23P
13 アイヌ語.....	岸本宜久 19P	52 産学官金連携.....	末富弘 14P
14 アイヌ民族.....	山田伸一 21P	53 ジェンダー.....	横山登志子 15P
15 いじめ.....	大澤真平 03P	54 自然環境.....	山田伸一 21P
16 移住定住.....	神谷章生 24P	55 持続可能性.....	藤永弘 27P
17 イノベーション.....	黄昕 30P	56 実行機能.....	大宮秀淑 07P
18 居場所.....	井上寿枝 05P	57 実践と理論.....	横山登志子 15P
19 医療・介護連携.....	石田潔 04P	58 児童福祉.....	大澤真平 03P
20 エイジング(古い).....	新田雅子 26P	59 自閉スペクトラム症.....	山本彩 09P
21 カウンセラー.....	ト部洋子 06P	60 司法福祉連携.....	山本彩 09P
22 学生相談室.....	ト部洋子 06P	61 社会教育.....	井上大樹 10P
23 家族.....	横山登志子 15P	62 社会人基礎力.....	矢川美恵子 16P
24 家族支援.....	山本彩 09P	63 社会的責任.....	黄昕 30P
25 活性化.....	神谷章生 24P	64 社会的ひきこもり.....	山本彩 09P
26 樺太(サハリン).....	山田伸一 21P	65 集客.....	神谷章生 24P
27 為替相場.....	吉川哲生 17P	66 主体性.....	河合直樹 11P
28 記憶力.....	大宮秀淑 07P	67 障害.....	斉藤美香 08P
29 飢餓をゼロに.....	橋長真紀子 29P	68 障害者雇用.....	田中敦士 20P
30 危機言語.....	岸本宜久 19P	69 少数言語.....	岸本宜久 19P
31 技術移転.....	末富弘 14P	70 職業リハビリテーション.....	田中敦士 20P
32 共生.....	斉藤美香 08P	71 女性史.....	新田雅子 26P
33 金融.....	吉川哲生 17P	72 書道.....	河合直樹 11P
34 金融政策.....	吉川哲生 17P	73 ジョブコーチ.....	田中敦士 20P
35 ケア(介護、介助等).....	新田雅子 26P	74 震災復興支援.....	河合直樹 11P
36 経済活動.....	大塚宣明 23P	75 心理学.....	河合直樹 11P
37 継続性.....	神谷章生 24P	76 心理教育.....	斉藤美香 08P
38 言語学.....	岸本宜久 19P	77 心理的バリア.....	斉藤美香 08P
39 言語保持(Language maintenance).....	白石英才 13P	78 数学教育.....	河合直樹 11P

キーワード索引

79	青少年育成	井上大樹	10P
80	精神疾患	大宮秀淑	07P
81	セラピードッグ	卜部洋子	06P
82	先住民族 (Indigenous people)	白石英才	13P
83	前頭葉	大宮秀淑	07P
84	ソーシャルビジネス	河西邦人	25P
85	ソーシャルワーク	石田潔 04P 横山登志子 15P	
86	組織開発	河合直樹	11P
87	ソフトウェア工学	渡邊愼哉	28P
88	大学発ベンチャー	末富弘	14P
89	ダイバーシティ	斉藤美香	08P
90	ダイバーシティ教育	田中敦士	20P
91	多職種連携	石田潔	04P
92	地域(コミュニティ)	神谷章生 24P 新田雅子 26P	
93	地域活性化	臼杵勲	22P
94	地域経営学	藤永弘	27P
95	地域支援	山本彩	09P
96	地域社会の活性化	大塚宣明	23P
97	地域情報	渡邊愼哉	28P
98	地域食堂	井上寿枝	05P
99	地域創生	藤永弘	27P
100	地域づくり	井上寿枝	05P
101	地域包括ケア	石田潔	04P
102	チームビルディング	矢川美恵子	16P
103	地方創生	井上大樹	10P
104	地名	山田伸一	21P
105	通院困難患者	石田潔	04P
106	つくる責任つかう責任	橋長真紀子	29P
107	デジタルシティ	渡邊愼哉	28P
108	東南アジア	佐野友泰	12P
109	特別支援教育	田中敦士	20P
110	トップマネジメントチーム	黄昕	30P
111	ニヴフ語(Nivkh)	白石英才	13P
112	日本手話	岸本宜久	19P
113	認知機能	大宮秀淑	07P
114	脳トレ	大宮秀淑	07P
115	パートナーシップで目標を達成しよう	橋長真紀子	29P
116	発達支援	山本彩	09P
117	母子	横山登志子	15P

118	北海道	山田伸一	21P
119	北海道小樽市	石田潔	04P
120	ビジネスマナー	矢川美恵子	16P
121	人や国の不平等をなくそう	橋長真紀子	29P
122	ヒューマンサービス	田中敦士	20P
123	描画	佐野友泰	12P
124	貧困をなくそう	橋長真紀子	29P
125	文化遺産	臼杵勲	22P
126	文化財	大塚宣明	23P
127	平和と公正をすべての人に	橋長真紀子	29P
128	北海道方言	岸本宜久	19P
129	ボーダレス	斉藤美香	08P
130	ホスピタリティ	矢川美恵子	16P
131	まちづくり	渡邊愼哉	28P
132	メンタルヘルス	横山登志子	15P
133	野生生物	山田伸一	21P
134	ライフストーリー	新田雅子	26P

研究者名索引

石田 潔	通院困難患者問題	04P
井上 寿枝	地域食堂かば亭(NPO法人つなく)	05P
井上 大樹	地域教育の活性化による基礎教育の質的保障の拡充	10P
臼杵 勲	地域文化遺産の保存と活用	22P
卜部 洋子	学生相談室のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み	06P
大澤 真平	子どもにやさしい街づくり	03P
大塚 宣明	「文化財の保存と経済活動の両立」を軸とした地域社会の活性化	23P
大宮 秀淑	前頭葉の機能改善から考える人々の健康	07P
神谷 章生	地域活性化とアイドルの活用	24P
河合 直樹	当事者が主体となる「学び」の場づくり	11P
河西 邦人	ソーシャルビジネスによる地域創生	25P
岸本 宜久	アイヌ語の記述と記録	19P
斉藤 美香	心理学的アプローチによるダイバーシティ社会の構築	08P
佐野 友泰	東南アジアの青年における描画表現	12P
白石 英才	民族の言語を記録し、次世代に継承する試み	13P
末富 弘	産学官金連携による地域創生の実現	14P
田中 敦士	ダイバーシティ・インクルージョン時代の人材養成と国家再生	20P
新田 雅子	現代社会におけるエイジングとケアの可能性	26P
橋長 真紀子	持続可能な生産と消費	29P
原田 寛之	公衆無線LANの相互接続基盤Cityroam (OpenRoaming)の展開	18P
黄 昕	Team Power Based on the Upper Echelons Theory	30P
藤永 弘	持続可能な地域創生のための「地域経営学」の学術的理論構築	27P
矢川 美恵子	地域企業の顧客ロイヤリティ構築及び発展に向けて	16P
山田 伸一	史料から歴史を探る	21P
山本 彩	自閉スペクトラム症と地域支援	09P
横山 登志子	ジェンダーの視点からソーシャルワークの理論と実践を探究する	15P
吉川 哲生	金融を知ると世の中がわかってくる	17P
渡邊 愼哉	ソフトウェア工学と地域づくり	28P